はくおうき
薄桜鬼
TM
巡恋華
弐
作画 暁かおり／錐もち／RURU
監修 アイディアファクトリー・デザインファクトリー

薄桜鬼（はくおうき）巡恋華

新選組奇譚

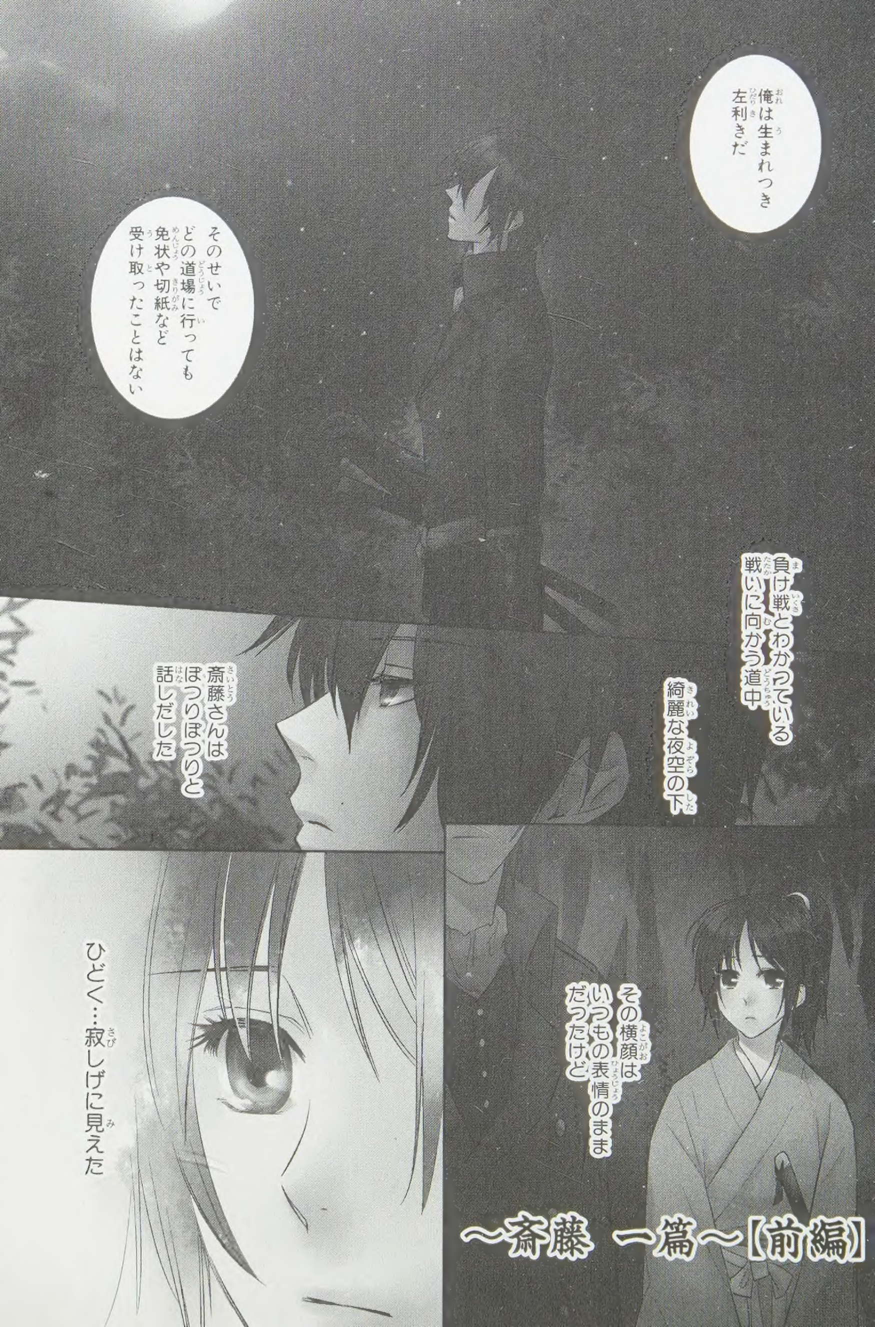
™

弐

作画　暁かおり／錐もち／RURU

監修　アイディアファクトリー・デザインファクトリー

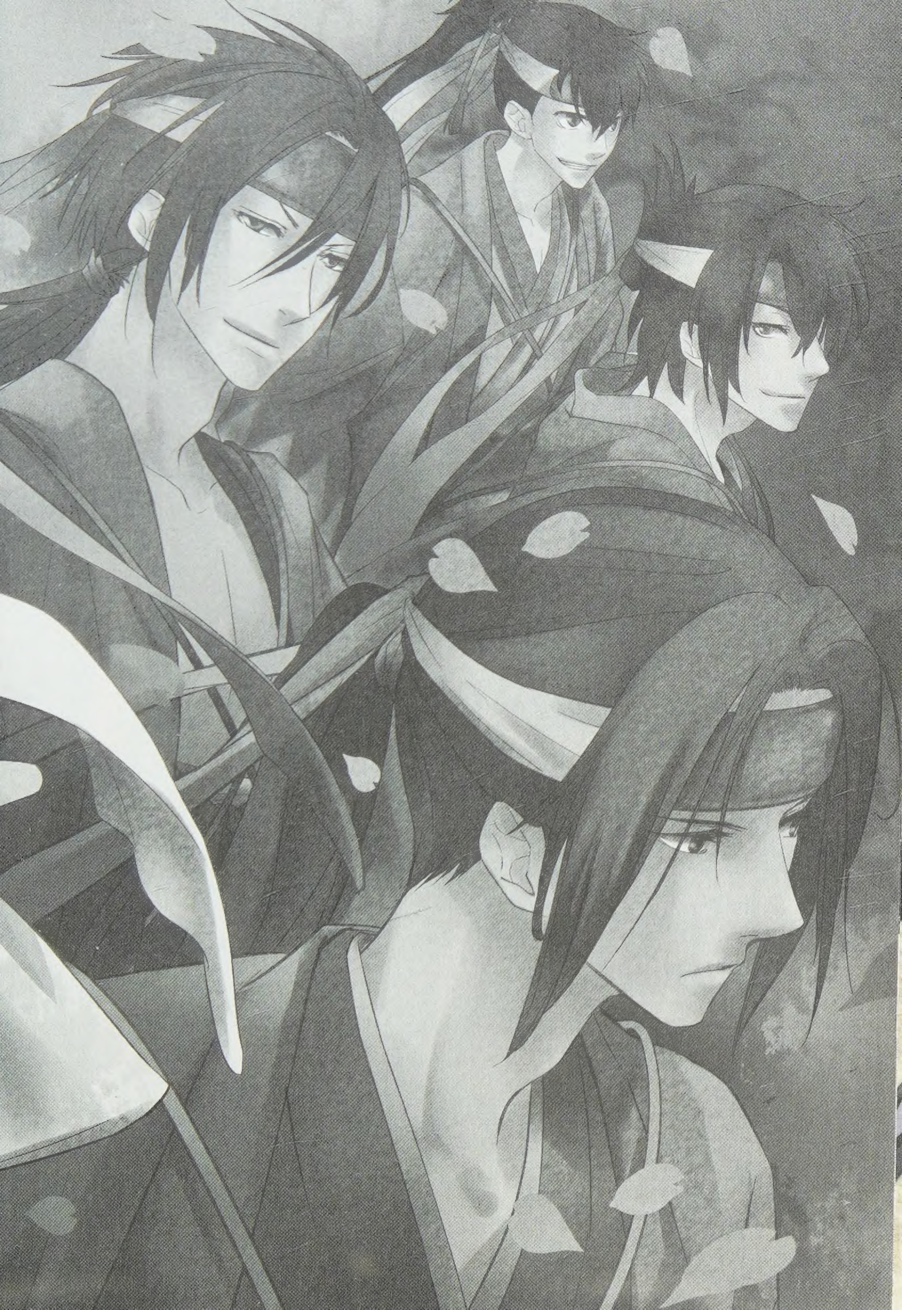
新選組奇譚


俺は生まれつき左利きだ
そのせいでどの道場に行っても免状や切紙など受け取ったことはない
負け戦とわかっている戦いに向かう道中
綺麗な夜空の下
斎藤さんはぽつりぽつりと話しだした
その横顔はいつもの表情のままだったけど
ひどく…寂しげに見えた
～斎藤 一篇～【前編】

目次

斎藤一篇［作画◆錐もち］
【前編】……007
【後編】……043
藤堂平助篇［作画◆暁かおり］
【前編】……077
【後編】……113
風間千景篇［作画◆RURU］
【前編】……148
【後編】……169

薄桜鬼（はくおうき）™
新選組奇譚
巡恋華
～斎藤 一篇～【前編】
作画
錐 もち



俺は生まれつき左利きだ
そのせいでどの道場に行っても免状や切紙など受け取ったことはない
竹刀を握った瞬間「不調法者」と持ち方を正される
だが そんなことを言った連中で俺に勝ったものはただのひとりもいない
では 本当の強さとは一体なんだ？
昔の俺はそんなことばかり考えていた
昔は……ってことは
今は答えが出たってことですか？

薄桜鬼(はくおうき)

巡恋華

新選組奇譚

™

新選組ができる前——
俺は旗本の子弟に
試合を申し込まれ
その相手を斬り殺し勝利した
しかし
果たし合いに勝ったはずの
俺は罪に問われ
脱藩を余儀なくされた
武士というのは
元々人を斬るのが
仕事だったはずなのに
実際に斬ると
罪人
こんな
矛盾した話が
あるか？
——斎藤さんの話の中で
「武士」という言葉は途方もなく大きく…
大切なもので
だけどその思いを共有できる人は
そう多くはいないんだと思う
類稀な剣技を
持っていながら誰からも
否定され続けたからこそ
斎藤さんは
「武士」や「強さ」に
こだわっているのかも……

…簡単なことだ
真剣で斬り合って勝った方が強い
…俺はそう考えていた
―だが
実際には違った―…

だがこれが…この爪だけが
俺が勝ち続けてきた証なのだ
斎藤さん…
――これより時間は少し遡る

そして 脱藩し
京に逃げてきてから
俺はようやく——
この剣を
生かす道を
見出した
新選組の人間は
俺の思い描く武士の姿と
よく似ていた
初めて
話の通じる相手に
巡り合ったと思った
……俺が今まで
研ぎ続けてきた爪は
娑婆ではなんの
役にも立たない

せめておめでたい日は和やかな時間を過ごせる方がいいな…
なんだ!?
いきなり地震が起こった訳じゃねえよな!?
!!?
どうなってやがんだよこりゃあ!

慶応三年 大政奉還が起き 幕府は事実上なくなった
京にはそれを知った 倒幕派である薩摩藩が 続々と集まってきた
京の治安を守る新選組は 薩摩藩の動向を監視しつつ 小競り合いを起こしていた
ふう ただいま〜
あっ おかえりなさい！
京の冬は相変わらず 骨にくるよな
ったく新年早々軍隊率いて おしかけやがって
雑煮食う暇すら ねえじゃねえか
だってさー 正月はやっぱ 餅食って寝るのが 醍醐味ってもんだろ〜ー
外の様子は どうだったん ですか？
……さして 問題はなかった 今のところは、たが
そうですか…
これから先は どうなるか わからないけど
ほ、

源さん ここの守りを頼む
俺は部隊を率いて本陣を攻めてくるかな
ああ 任せておいてくれ トシさん!
そうして
土方さん・永倉さん・原田さん部隊は本陣のある御香宮神社へ
斎藤さんは砲撃を止めるために龍雲寺へ向かうことになった
私は――
おまえはここに残っていろ
今度ばかりは生き延びられる保証はない
あっ…

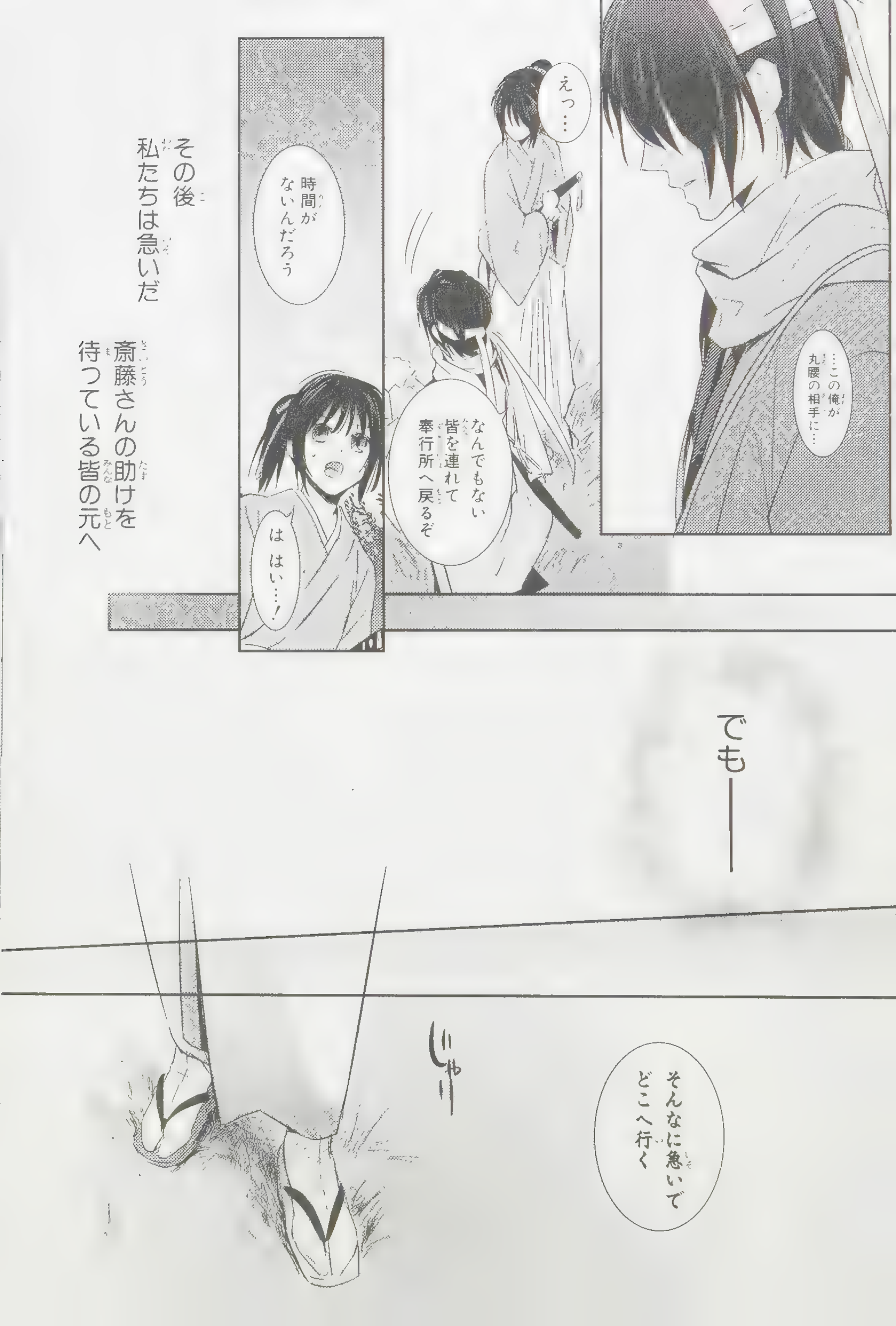
地も割れよとばかりにこだました轟音は
ズオオン
ズオン
薩摩の手で隣の龍雲寺に仕掛けられた大砲によるものだつた
…建物にかなりの損傷が出てるみたいだな
きゃあああっ
土方さん！
近藤さんに本隊の指揮を任された
…これから反撃するぞ
よしそうこねえとな！
やってやろうじゃねえか！
薩長の連中みてやがれ！

俺たちが薩摩勢の目を引きつけておく
その間に裏から出るんだ
はぁ
はぁっ
──早く早く急がなきゃ!!
斎藤さんのところへ…!
──人の身でありながら
はぁ
はっ

ただ祈るしかなかつた
皆の無事を……
…それから
どれぐらい
経つただろう
とうとう奉行所にも
薩摩兵が攻め込んで
きてしまつた
いずれか一隊でも
呼び戻さないと
残された者だけでは
ここを守り切れない
状況になり——
私が伝令に
行きます——！
君が行くのなら
本陣は危険た
斎藤くんのいる
龍雲寺へ行って
すぐに戻ってくるよう
言ってほしい

大変なんです
伏見奉行所に
薩摩兵が！
──何？
龍雲寺への襲撃は
中止して奉行所に
戻ってください
井上さんや
山崎さんが──！
はぁ、
ここは
一旦退いて…
早くしないとっ
──!!

私と戦える者が存在するとは驚きました
見事です
ハァ
ハァ
ハァ
ですがやはり人は人ですね
それが限界…というところでしょうか
斎藤さん！


…この俺が丸腰の相手に…
えっ…
なんでもない 皆を連れて奉行所へ戻るぞ
時間がないんだろう
は はい…!
その後 私たちは急いだ
斎藤さんの助けを待っている皆の元へ
でも——
じゃり
そんなに急いでどこへ行く

——それでは
この場は あなたの力量に免じ 見逃しましょう
ですが お気を付けなさい
——風間は 彼女を欲して います
!
……風間は 私よりも遥かに 強い力を有している
人の手で 彼女を守りきることは 不可能でしょう
行動を別にすることを 勧めます
——……

なんだ 俺と戦うつもりか? くくく…こいつはいい
貴重な女鬼を死なせられてはたまらぬと奪い取りにきたが…
まさか
ひ弱な人間の身で俺に戦いを挑む愚か者がいたとはな

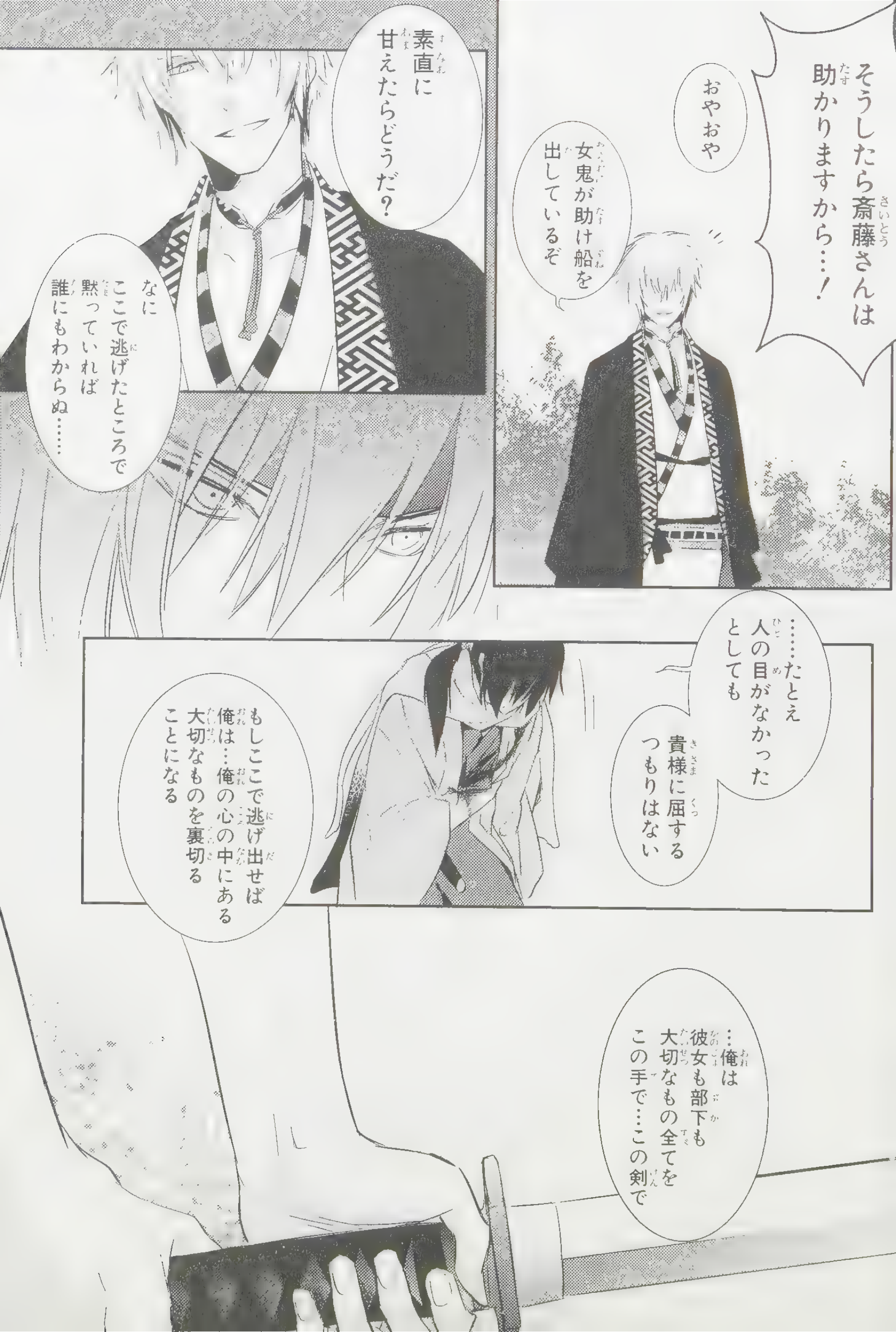
…久しぶりだな
まだそんなひ弱な連中と行動を共にしているのか
あ あなたは…
どうしてこんな時に——！
…おまえは下がっていろ
で ですけど
いいから下がっていろ

後ろだ
!!
いない——!?
ぐっ

鬼に刀を向けたこと
地獄で後悔するがいい
ザッ
!!

やれやれ
どうした？悔しそうな顔をしているな
この俺が憎いか
ぐっ
なんという鈍くて脆い生き物だ

——また
後ろだ
!!
斎藤さん!!


そうしたら斎藤さんは助かりますから…！
おやおや
女鬼が助け船を出しているぞ
素直に甘えたらどうだ？
なにここで逃げたところで黙っていれば誰にもわからぬ……
……たとえ人の目がなかったとしても
貴様に屈するつもりはない
もしここで逃げ出せば俺は…俺の心の中にある大切なものを裏切ることになる
…俺は彼女も部下も大切なもの全てをこの手で…この剣で

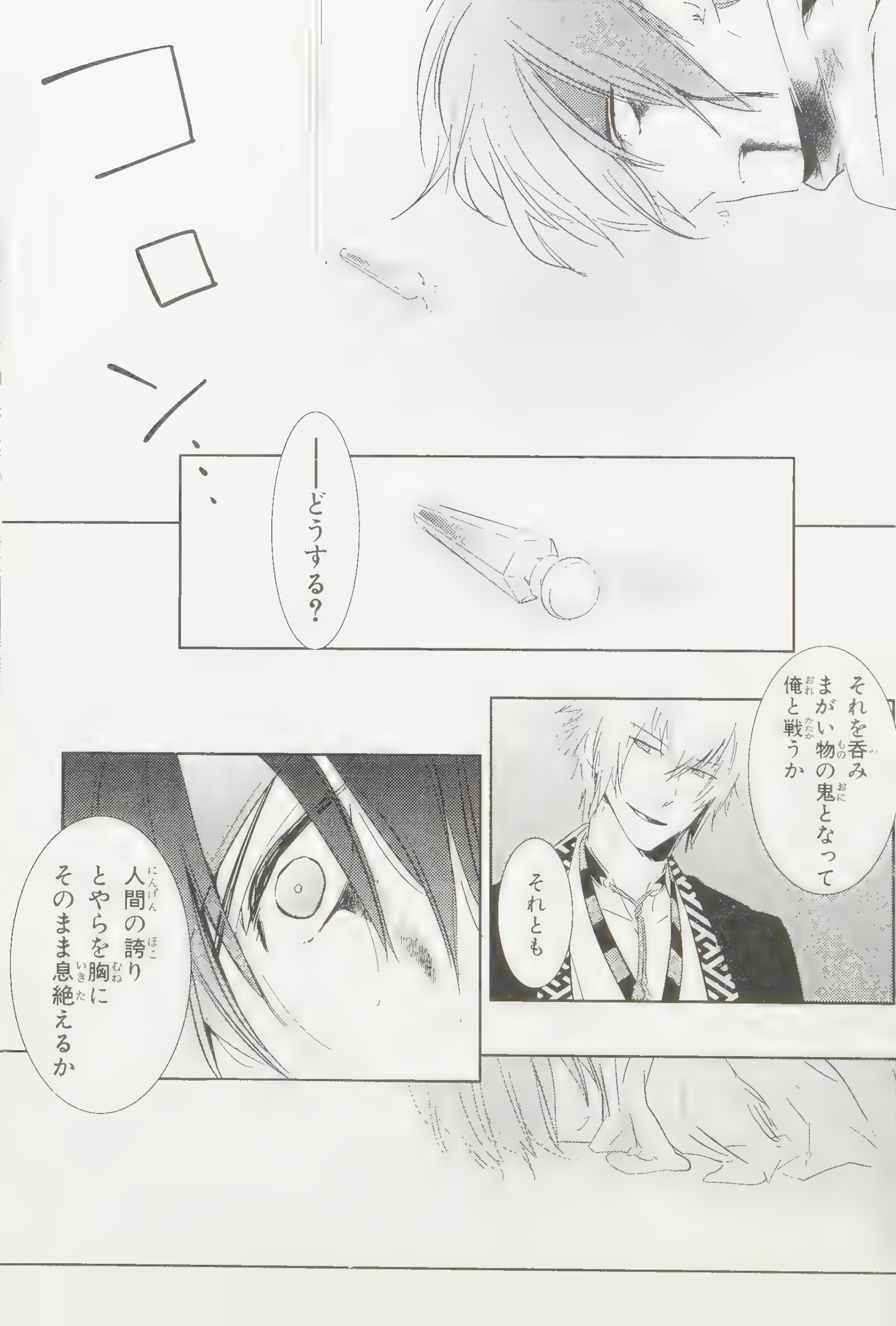
斎藤さん!!
お願いですからもう立ち上がらないでください!
私がっ
私がこの人について行けばいいんです!

その大切なものとはなんだ？ちっぽけな誇りか？犬の餌にもならぬ名誉とやらか!?
答えてみろ人間 虫けら以下の生き物が何を大切だとぬかす
いや…お願い…
もう…
もうやめて…!!

守る
ふははははは
守るだと？そのボロキレのような身体でか？
これはいい！

斎藤とやら
俺に勝ちたいか？
大切なものとやらを
守り抜きたいか？
ッ
はぁ
はぁ
はぁ
――よかろう

……ーー
はぁ
はぁ
は
ザ
ザ
………
動かぬ体を切り刻むというのは想像以上につまらぬものだな



コロン…
――どうする？
それを呑み まがい物の鬼となって 俺と戦うか
それとも
人間の誇りとやらを胸に そのまま息絶えるか

ひとつ機会(きかい)をやろう
あれは
変若水(おちみず)…!?
ポロ

ん……
っ
ばッ

!!
だめですっ
斎藤さん！

ふはははは
貴様にはなんの誇りもないのだな!?
俺に勝つために変若水にすら手を出すか!
……これが……なんとでも言え
俺にとっての誇りの証だ
新選組が彼女を守ると決めたなら
～斎藤 一篇～【後編】

斎藤さん――！
～斎藤 一篇～【前編】了

……これはいい
自分の意志も考えも持ち合わせぬただの犬だな
犬で構わん
己が正しいと信じたものに命をささげるなら本望だ
貴様は新選組の為なら人としての生すら捨てるつもりか？
正しいと信じたもの？
落ち目の幕府と共に消え行く時代錯誤の浪士集団がか？

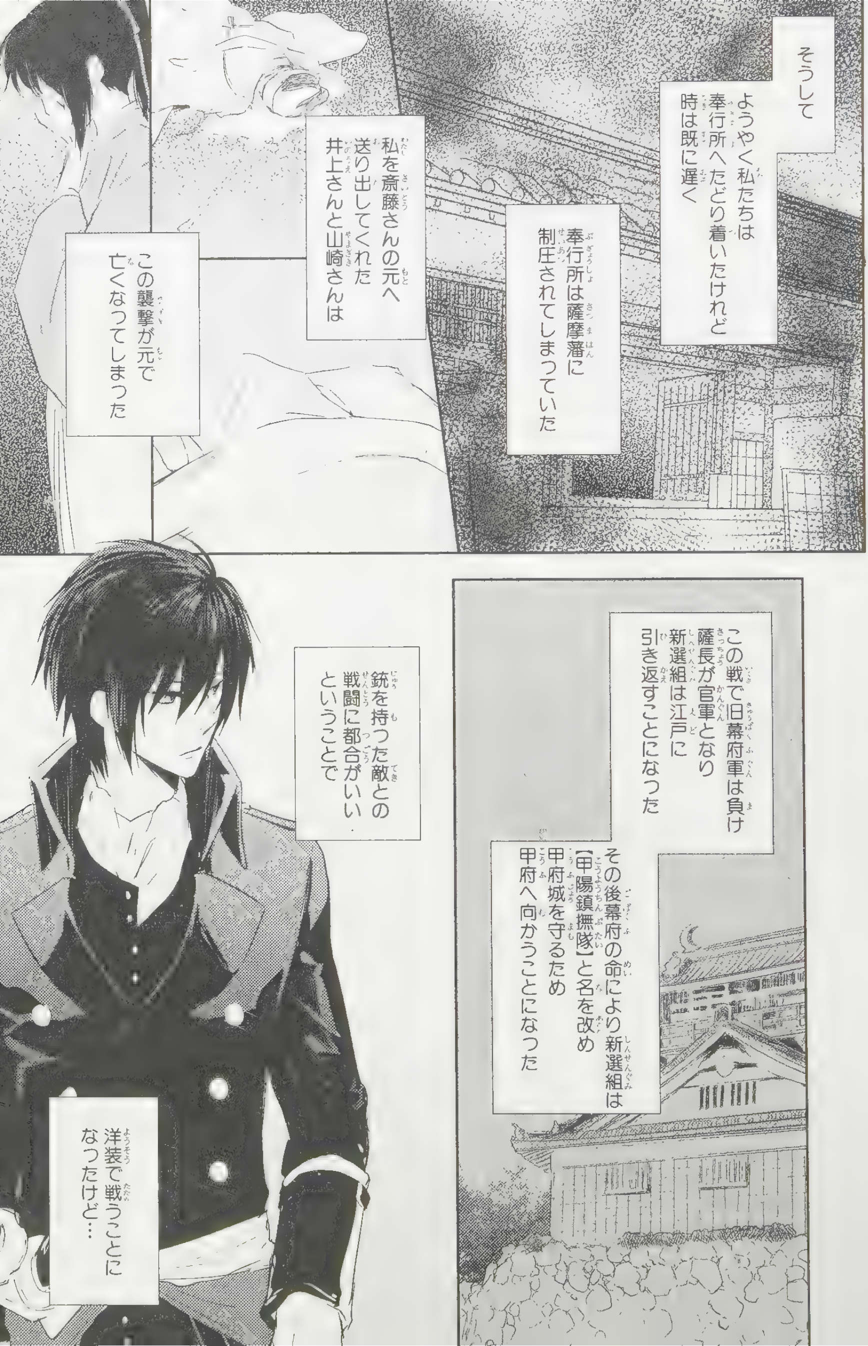
たとえ羅刹となってでも
守り抜いてみせる
薄桜鬼
巡恋華
~斎藤 一篇~【後編】
作画
錐もち

いい
いいぞ…！
ははははは！
せめてこれくらいは
力が拮抗していないと
面白くない！
さて
そろそろ本気を
出してやろう
覚悟はいいか
おやめなさい

何度でも言ってやろう
幕府は既に消滅し
貴様ら残党も滅び去る運命よ
貴様の持つ刀にはもう
なんの意味もない
黙れ…！
意地だの誇りだのと
訳のわからん
世迷事を抜かす
武士とやらの時代は
終わったのだ！
……っ

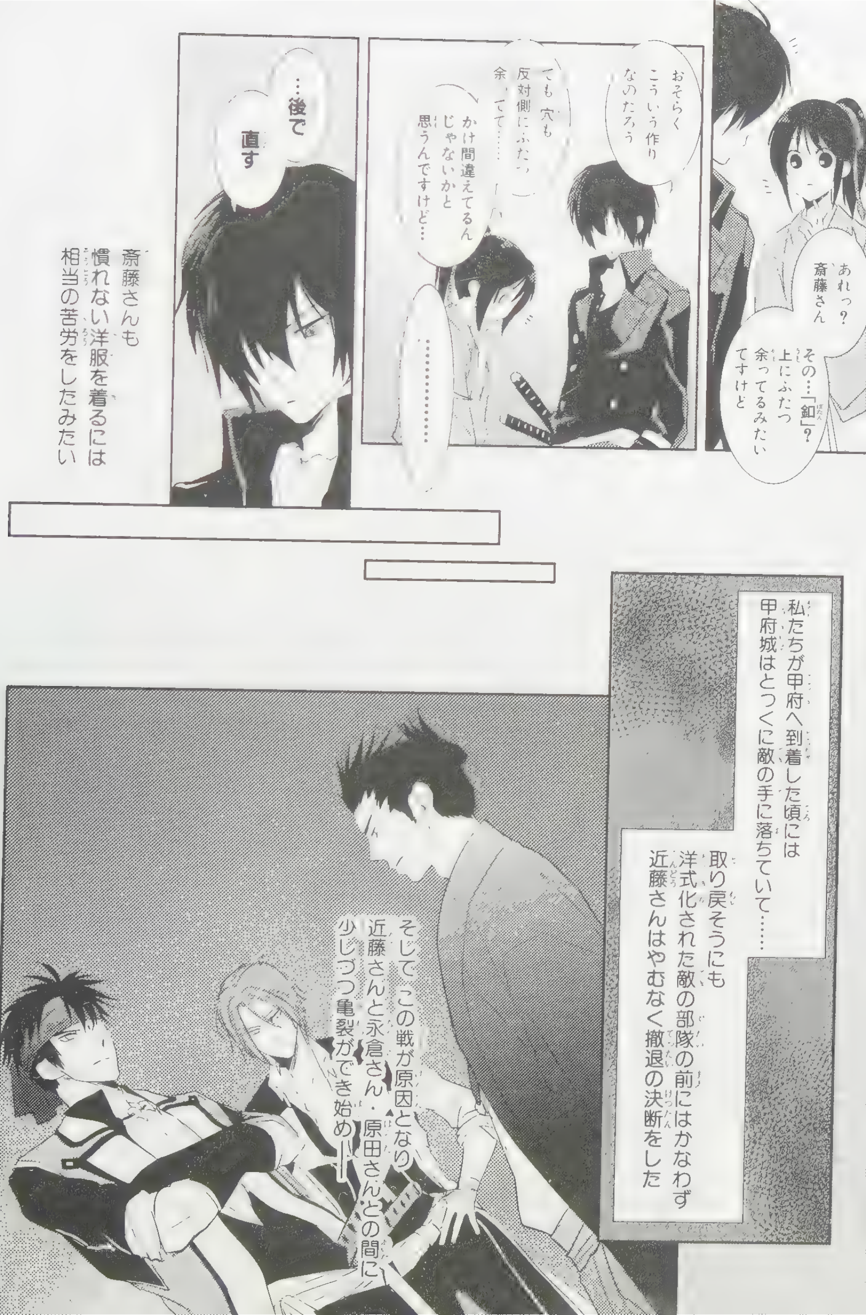
しばらく我が妻をおまえに預けておこう
絶対に死なせるなよ
「――新選組が命じているから……」
………

……
天霧
なんの用だ……
今 薩摩藩といさかいを起こす訳にはいかないでしょう
……チッ
薩摩藩の方があなたを呼んでいますよ
ここはお戻りください
まがい物の番犬よ


そうして
ようやく私たちは奉行所へたどり着いたけれど時は既に遅く
奉行所は薩摩藩に制圧されてしまっていた
私を斎藤さんの元へ送り出してくれた井上さんと山崎さんは
この襲撃が元で亡くなってしまった
この戦で旧幕府軍は負け薩長が官軍となり新選組は江戸に引き返すことになった
その後幕府の命により新選組は【甲陽鎮撫隊】と名を改め甲府城を守るため甲府へ向かうことになった
銃を持った敵との戦闘に都合がいいということで
洋装で戦うことになったけど…

ただそれだけの理由(わけ)で
なんのためらいもなく、羅刹(せつ)となってしまった斎藤(さいとう)さんが
ひどく痛々しくて――

ついには
決定的な近藤さんとの考えの違いから永倉さんと原田さんが新選組を脱退することになってしまった…
そんじゃ世話になったなふたりとも
あの……どうして……って
理由をうかがってもいいですか？
ん？んー……
なんていうかな……
このままここにいると俺が生きてきた人生が全部嘘になっちまう気がしたんだ
嘘に…
ああ
俺は近藤さんや土方さんみてえに侍になりてえって思ってた訳じゃねえからさ


あれっ？斎藤さん
その…「釦」？上にふたつ余ってるみたいですけど
おそらくこういう作りなのだろう
でも穴も反対側にふたつ余ってて……
かけ間違えてるんじゃないかと思うんですけど…
……
…後で直す
斎藤さんも慣れない洋服を着るには相当の苦労をしたみたい
私たちが甲府へ到着した頃には甲府城はとっくに敵の手に落ちていて……
取り戻そうにも洋式化された敵の部隊の前にはかなわず近藤さんはやむなく撤退の決断をした
そして この戦が原因となり近藤さんと永倉さん・原田さんとの間に少しづつ亀裂ができ始め——

沖田さんも
肺の病の療養中で
ここにはいない
近藤さんは甲府から戻って以来
すっかり覇気がなくなり
土方さんは幕府との
話し合いのため頻繁に
屯所を留守にしている
必然的に
斎藤さんは多くの仕事を
こなさなくてはならなくなった
既に羅刹となって
だいぶ時間が経っている
昼間に動くだけでも
辛いはずなのに……
斎藤さん
大丈夫ですか？
少しお休みになった方が
いいんじゃないですか？
大丈夫だ
——それに休んでいる
時間などない
そして——
……会津行きの準備を
早急に済ませなければ
ならないからな
新選組は
体勢を整えるために会津へ
向かうことになった

自分が選んだ訳でもねえ殿様に命懸けで尽くすってのはどうしても性に合わねえ
薩長の連中に銃て撃たれるのは別にいい
斬られることだって怖くねえ
…ただ
死ぬ間際に「あの時ああしてりゃよかった」って思うのだけは絶対に嫌なんだ
永倉さん原田さんが抜け——

ああ
すぐに追いつくから
待っててくれ
近藤さん
土方さん……
どうか
ご無事で――！
その日は
今まで過ごした中で
一番長くて――
不安な一日だった

しかし……
会津へ向かう途中の流山・金子邸で新選組は敵の襲撃を受け
私は斎藤さんに連れられ近藤さん・土方さんより一足先に会津を目指すことになった――
ふたりを残して行くことに斎藤さんは納得できてないようだったけれど――
俺たちがみんな死んしまったら誰が新選組の名を継いてくれるんだ?
……わかりました
おふたりにまたお会いできると信じています……

……斎藤さん
……ひとりで出歩くなと
何度も言わなかったか？
…はい
そう言われる
だろうなって
思ってました
……おそはに
行ってもいいですか？

……斎藤さん……

……皆本物だった
はずなのに
行く手がそれぞれ別れてしまったのは何故だと思う？
……
……私は……
難しいことはわかりませんけど……
永倉さんには永倉さんにとっての正しい答えがあって
もちろん近藤さんにも近藤さんなりの正しい答えがあって
……ふたつの答えがどうしても折り合いのつけられないもの同士だったら道が別れてしまっても仕方がないんだと思います

……新選組とは本物の武士たちの拠り所だと思っていた
だが……本物の武士だと思っていた新八が抜け左之が抜け……
近藤さんも戦う意欲を失ってしまった

その新選組の人間が今は道を分かち散り散りになっている
俺の今まで信じていた武士とは一体なんだ？
……このまま正しいと信じ続けていたものをなくし
いずれは俺自身も何が正しいのかわからなくなる
そんな日がいつかくるかもしれない…
そうはならないと思います！
きゅ

…………
……自分にとっての正しい答え……か
——俺は新選組で自分の生きる道を見出した
新選組こそが正しい武士の姿だと信じていた

左利きだからと前に言ったはずだが
左利きの人ってたくさんいますけどどんな人でも大抵刀だけは左に差しますよね
前に斎藤さん言ってましたどんな道場にいっても真っ先に持ち方を正されるって
それでも
頑なに変えなかったのはどうしてですか？
何か理由があったんですか？
……俺は
右差しでも十分強いそれなのに何故わざわざ左差しにして剣の技術を落とさなければならないのかわからなかった

私は そうはならないと 思います
だって 斎藤さんは 強いですから
俺は――強くない
本当に強ければ 変若水など飲む 必要はなかった
――違います！ 剣の上手い下手だけが 強さじゃないと 思うんです！
では一体なんだというのだ？
………
斎藤さんは どうして刀を右に 差しているんですか

……そんなことを言われたのは
初めてだ
――金子邸を出て数か月

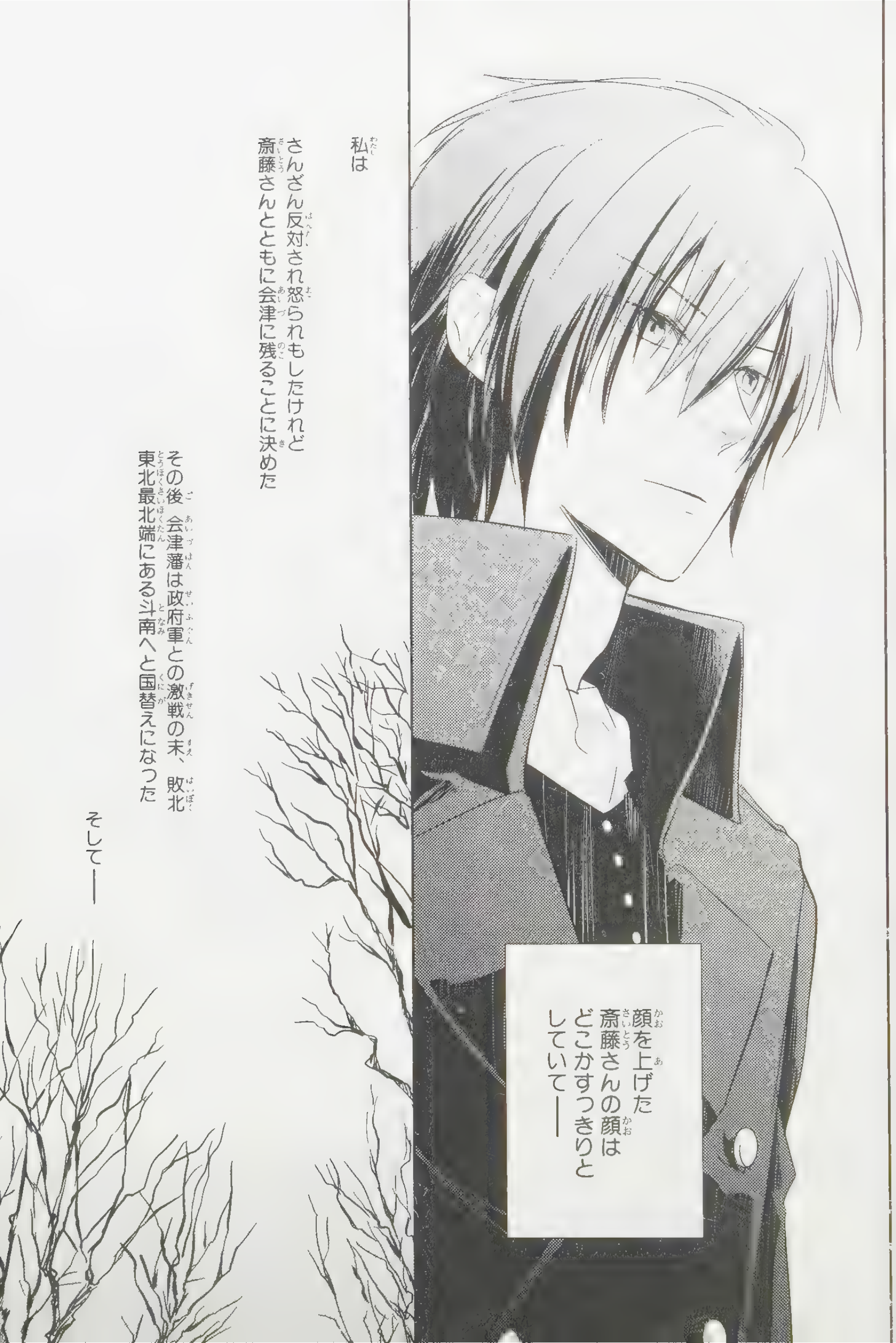
……ほら
……何？
やっぱり斎藤さんは強いじゃないですか
自分で決めたことだから……自分にとっては正しいって思ったから誰に何を言われても貫き通したんでしょう？
何が正しいのかを自分で決められる人は間違った道を歩んだりしません……きっと

お言葉ですが副長——
我々新選組は会津藩に多大なる御恩顧をこうむっています
会津藩がなければ新選組は存在すらしていなかったはず…
……おまえの言いてえことはわからなくもないが
俺が宇都宮で戦った時もそうだったんだ
我々が武士として会津公に微衷を尽くす機会は今を置いて他にはないのではないですか？
……多分今回も同じ結末になると思うぜ

私たちはようやく会津へ到着し後からきた土方さんたちと合流することができた
近藤さんは……敵の手に捕らえられ斬首刑にされてしまっていた…
切腹もさせてもらえないとわかった時
近藤さんは「しょうがないな」といつものあの笑顔で言ったらしい
……近藤さんは誰がなんと言おうと本物の武士だったんだと思う
そんな中
会津藩主より敵の手に落ちていた白河城奪回の出陣要請が下される
だけど…
今は白河城を奪い返してる場合じゃねえ
どうせ必死こいて取り戻してもまた奪われちまういたちごっこだ
しかし…
それよりさっさと仙台に向かって他の藩と連携して戦った方がいい

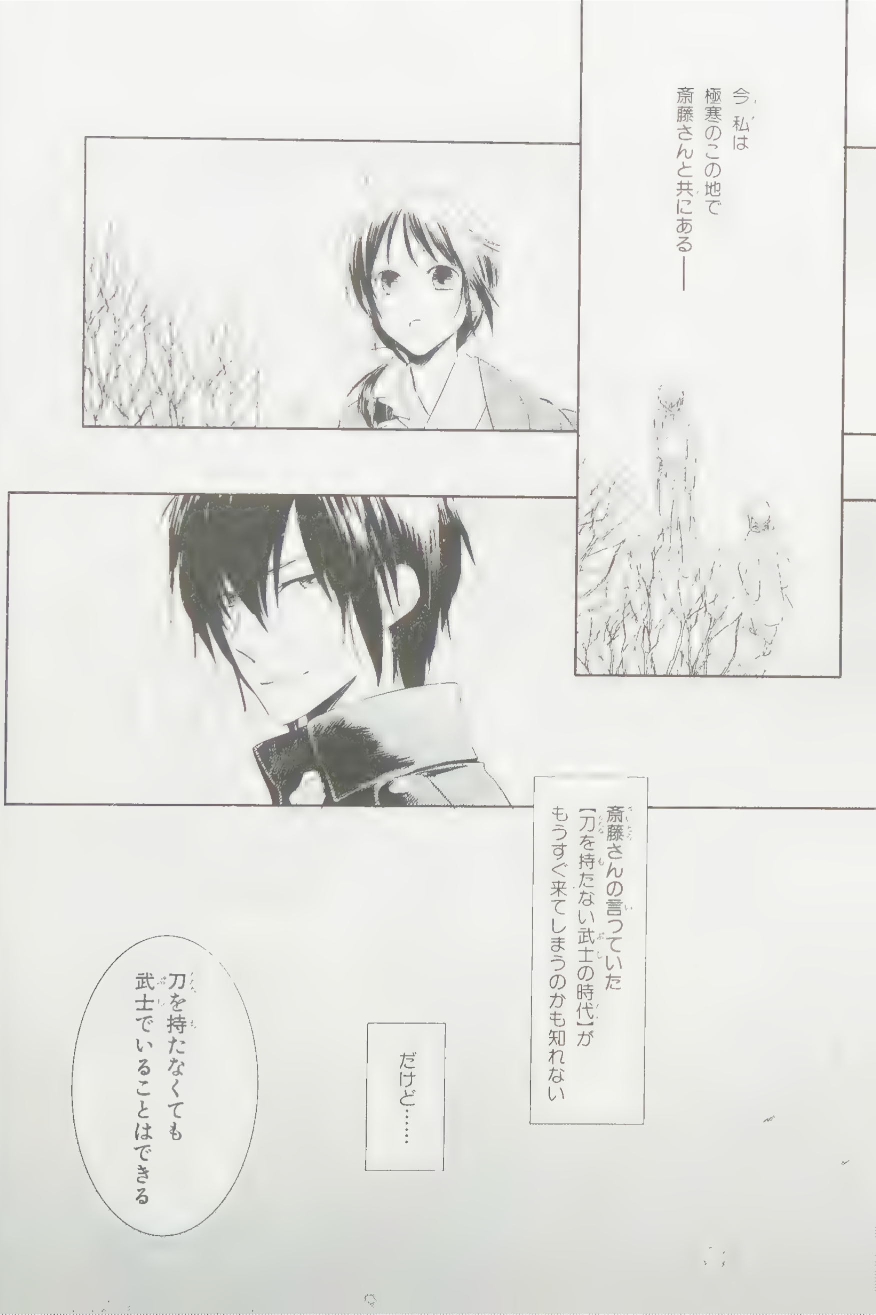
そして 脱藩し行き場をなくし
武士としては 死んでいた俺を 生き返らせてくれたのは 新選組という組織…… ひいては会津公です
武士は刀とともに あるのが当たり前で 刀は武士の腰に 差してこそで……
……主をなくした刀か 刀なき武士か……
どちらかしか選べなくて そのどちらも正しいと 言うのなら俺は……
俺は 俺の意志で 刀なき武士になることを 選びます

……なあ 斎藤
堅っ苦しい言葉じゃなくて思ってることをそのまま喋ってみろよ
………
微衷だとか御恩顧だとかおまえの言いてえことはそんなややこしいことじゃねえんだろ
右差しの俺の剣に命を吹き込んでくれたのはあんたや近藤さん……試衛館の面々です
あんたたちは俺にとって【刀】そのものでした


顔を上げた斎藤さんの顔はどこかすっきりとしていて――
私は
さんざん反対され怒られもしたけれど
斎藤さんとともに会津に残ることに決めた
その後 会津藩は政府軍との激戦の末、敗北
東北最北端にある斗南へと国替えになった
そして――

――なるほど
それは
新選組と
袂を分かつ言葉
だけど この先
決して後悔しないように
考え抜いて導き出した
斎藤さんにとっての
正しい答え――
会津は今まさに
厳しい戦いの渦中にある
どう考えても負け戦で…
今度こそ本当に
死んでしまうかも知れない
それでも

自分の心を裏切らなければ
生まれがどうあってもその人間は武士だ
斎藤さんはそう言った
はっきりとした響きを持って
～斎藤 一篇～【後編】了


今、私は
極寒のこの地で
斎藤さんと共にある――
斎藤さんの言っていた
【刀を持たない武士の時代】が
もうすぐ来てしまうのかも知れない
だけど……
刀を持たなくても
武士でいることはできる

新選組
ある事情から
私はこの組織で
生活することになり
部屋をひとつ
与えられ
勝手に
出ないよう
注意を
受けていた
ーけど
何もせずに
ただじっとしている
だけなんて
～藤堂平助篇～【前編】

薄桜鬼（はくおうき）
巡恋華
新選組奇譚
™

はくおうき
薄桜鬼
新選組奇譚
巡恋華
~藤堂平助篇~【前編】
作画
暁かおり
TM

いいか うろちょろすんじゃねえぞ
部屋に引きこもってろ!
鬼の副長どの
そう言われても
少しくらいいいよね
住んでいる屯所の造りすら知らないんだもの
見張りもいない…!
他の隊士にばれないように慎重に…
あれ?
千鶴じゃん!
何してんだよ
とた とた
ビクゥ
キャアアアア
って言ったそばから!!

薄桜鬼（はくおうき）™

巡恋華

新選組奇譚

戻るって…部屋にか？
はい…
やっぱり今みたいに他の隊士さんに見つかったらまずいですもんね
藤堂さんだから良かったですけど…
まぁそうだけど…
あっ
良いこと思いついたぜ
オレが案内してやるよ！
でも…
おまえひとりじゃアレだけど
オレと一緒なら誰かに見つかっても大丈夫だろ
それはそうですけど…

すみません!
勝手に部屋を出て…
この人は新選組八番組組長の藤堂平助さん
この若さで幹部というだけあり剣の腕も相当のものらしい
ちょっと屯所を見て回ろうと思ったんですけど…
も 戻りますっ
怖い

うん！
改めてよろしくな！
それじゃあさっそく行こうぜ
ぱしっ
わっ

藤堂さんの手を煩わせてしまうんじゃ…
ってかさあそれ!
「藤堂さん」とか他人行儀な呼び方やめようぜ
そんな…
「平助」でいいよ
しばらく一緒に暮らすんだしよ~
じゃあ…
平助…
君…?
おず
おず

新選組って恐い人ばかりだと思っていたけど
そんなことないのかな
あれ　平助？
…と千鶴も！

まあ あまり
遠くまでは連れて
いけないけどな

あーあ
しかし
男装のままとは
もったいねぇ
女の子の格好
してくれたら目の
保養になるのによ
あ！
オレも
絶対かわいい
と思う!!
色々落ち着いたらさ
振り袖着て
見せてくれよ！
おっ平助
いいなそれ！
ちょっ
そんな
いきなり…
期待
されても…
う…
わくわく
わくわく
断れない…っ

うわっ
左之さん 新八っつぁん！
んずゞ
抜けかけな 平助…
何してんだ？
まさか…!!
ち 違えよ！
屯所を案内してたんだっての
本当だろうな やましいことは一切ねえよな!?
ワー ワー ワー
気ぃつけろよ千鶴！
しつこいよおじさん
はあ…
この3人本当に仲が良いんだなあ…

ふふ、
楽しい――…
わ 笑った…!
平助君たちのおかげで思ったより簡単に新選組へ馴染むことができた

……い……
いつか…
カァァァァ
機会があれば…
ですよ？
よっしゃあ!!
すごい喜びよう…
ここでの生活は急なことで先行き不安だったけど
この人たちといるのは
なんというか

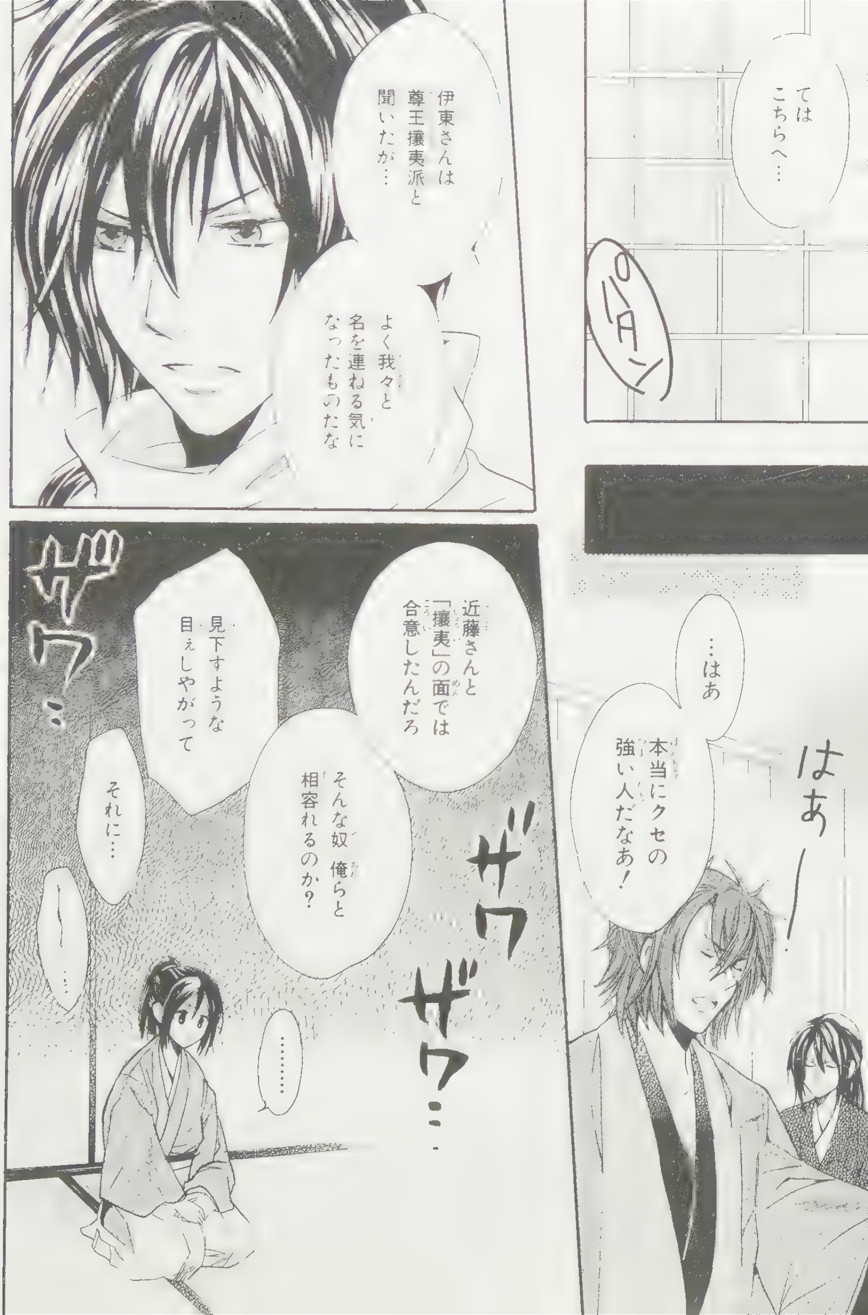
アハハ
それ…
あそこの坊主たちに絶対嫌がられるじゃないですか
西本願寺は長州に協力的だ
浪士を匿っていたこともある
同意を得るのは容易なことではないだろう
だが俺たちが移転すれば長州は身を隠す場所を一つ失うことになる…!
反対されても強引に押し切るつもりですか?
土方さんらしいですね
ザワ…!
ガラ
なんだ盛り上がっているな
近藤さん!
話の途中ですまないが
皆に紹介したい人がいる

ある日の朝食後――…
ガラ
お茶が入りました
この屯所もそろそろ手狭になってきた
はー…
広いところに移らねえとな…
だけど新選組を受け入れてくれる場所なんて心当たりあるんですか？
ニヤ
西本願寺

あ…え――
伊東さん
良ければ隊士の稽古を見に行きませんかね？
まあ
素敵なお誘いですこと
ニコッ
男たちの汗臭さへ浸りに行くのも実に愉快なことじゃございませんか！
あ　汗臭さ…ですか？
確かに道場は熱気がこもってるかもしれませんなあ

伊東甲子太郎先生だ
これから参謀として新選組に加わってもらうことになる
どうぞよろしくお願いいたしますわ
チラ…
ふぅん…
お噂どおりの場所のようですわねえ
は?
はぁ…

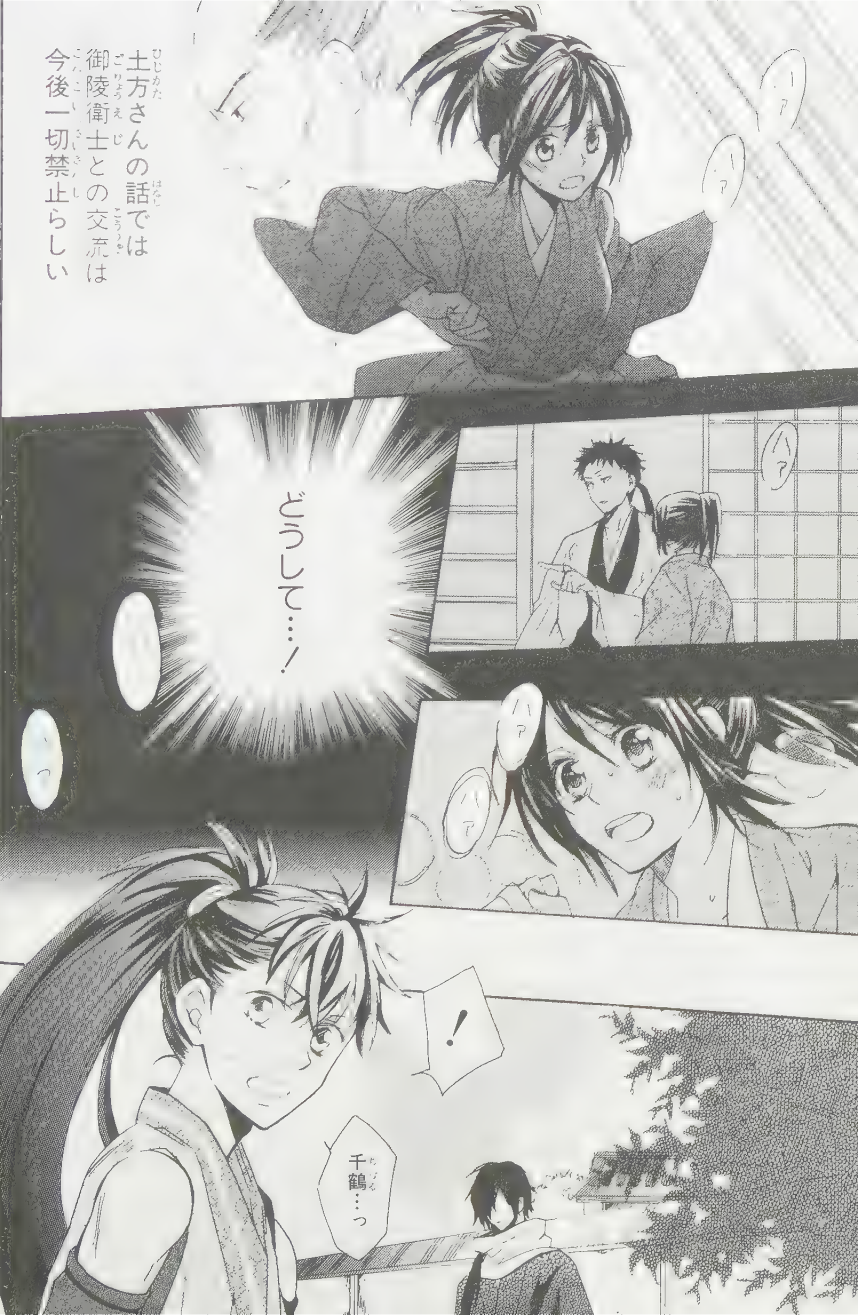
なんだか少し ややこしいことに なっちゃったみたい…
それから 伊東さんと幹部の皆が 言い争っているのをよく 見かけるようになった…
一方 江戸へ 出張していた 平助君が戻り
私は昔みたいな 毎日が送れると 思っていた
あれ?
でも…
島田さんと 井上さん?


ては
こちらへ…
パタン
伊東さんは尊王攘夷派と聞いたが…
よく我々と名を連ねる気になったものだな
…はあ
本当にクセの強い人だなあ!
はあー!
ザワ
ザワ…
近藤さんと「攘夷」の面では合意したんだろ
そんな奴 俺らと相容れるのか?
見下すような目ぇしやがって
それに…
ザワ…
…………

藤堂君と斎藤君も一緒にここを去るそうだ
!?
うそ
嘘……!!
大丈夫かい雪村君
…ッ私……
確かめてきます…!

あの…何かあったんですか？
雪村君…
それが…
伊東さんが新選組を抜けると言い出したらしい…
ええっ…
なんでも「御陵衛士」という新しい隊を起こすそうだ
……
あ
で でもこれで皆さんがピリピリしてしまうこともなくなるんじゃ…？
ふー…
？
何か…
出ていくのが伊東さんだけならよかったんだがね…
うちの隊士の中でも何人か伊東さんについていく人がいるんだよ

ってオイ
大丈夫かよ
ゼーゼー
ゼーゼー
へ…すけ君
斎藤さん…
がばっ
本当なんですか
御陵衛士のこと…
やっぱ来たか
………
本当だ
!
そんな…
どうしてなんですか!?
あんなに仲が良かったのに…
他の皆だってふたりに残ってほしいはずです…!
千鶴…


ハァ
ハァ
土方さんの話では
御陵衛士との交流は
今後一切禁止らしい
ハァ
どうして…！
ハァ
ハァ
っ
！
千鶴…っ

平助君…
はあ…
すっかり暖かくなったなあ
千鶴ちょっとそこ座ろうぜ
オレだって昨日今日で答えを出したんじゃない
迷ったさ…
けどやっぱり伊東さんについてくよ

話は それだけか？
え……
俺たちは自らの志に従ってここを離れることを決めたんだ
これまでの情などすべて切り捨てる覚悟もある
………
俺はもう行かせてもらう
強えなあ あの人は…
あ……

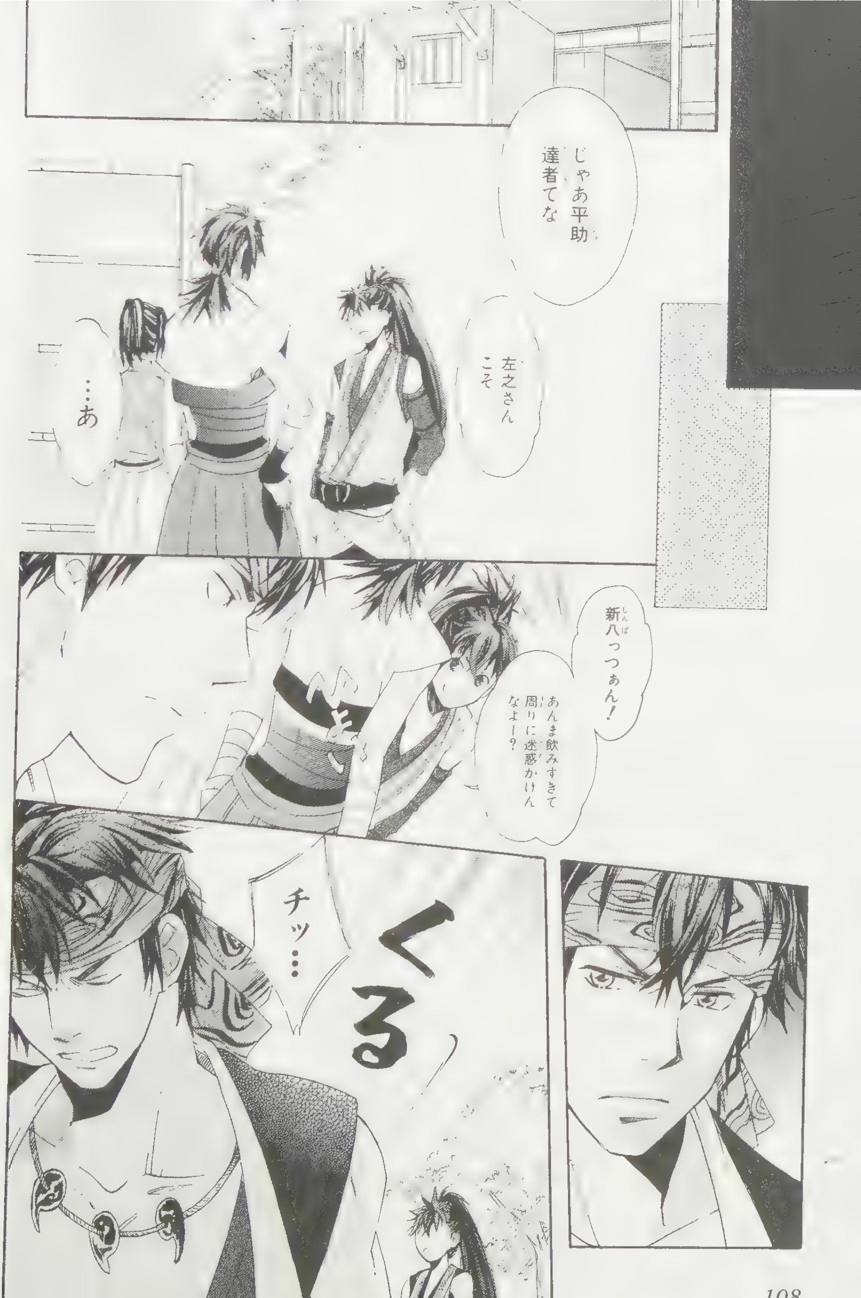
もう
決めたんだ…
でも…
私はもっと…
もっと一緒に
平助君と
いられたらって…
!
いっ いや
オレだって
皆が嫌いになった
ワケじゃねーよ!?
けどよ
それはその…

本当は皆と
ずっと馬鹿騒ぎ
していたい
けど伊東さんは
同じ流派の先輩で
新選組に来てくれる
よう誘ったのも
オレだし
ついて行く義務が
あると思う
伊東さんも何か
企んでるんじゃ
ないかってのは
わかるんだけどさ
あの人が全部
間違ってるとは
思えないんだ
尊攘や佐幕だって
何が正しいかは
やってみないと
わからないし
この国のために
必要なものを
見てみたい

ぎゅ……
平助君
気をつけてね…
約束する
無駄に命を捨てるような真似はしないさ

そりゃ…
オレだって お前と離れるのが 寂しくねえって 言ったら
嘘になるけど…
だけどもう 決めたんだ
オレだって 男だからさ…
平助君も 同じなんだ
うん…
ありがとう 平助君の気持ちを 話してくれて
辛いのも 寂しいのも

うっわ ひでーの
まぁ あいつなりに寂しいんだよ
俺もな
……
じゃあ 元気で
ぽん



じゃあ平助 達者てな
左之さんこそ
…あ
新八っつぁん！
あんま飲みすきて周りに迷惑かけんなよー？
くる
チッ…

何かが起こりそうな気がする——…
～藤堂平助篇～【前編】了

クソッ
新八…
次に会う時は
アイツと敵同士
なんて事態だけは
俺はお断り
だからな…！
まるで新選組が
バラバラになって
しまったようで
ずきん…
言い知れない
不安が募っていく…

半年前
平助君と斎藤さんが
御陵衛士として
新選組を去った
あの日から
〜藤堂平助篇〜
【後編】
嫌な予感が
していた
何か良くない
ことが
起こるんじゃ
ないかって…

薄桜鬼（はくおうき）

巡恋華

新選組奇譚

™

平助君がいなくなつてからの日常はとても静かに感じる
一緒にいた頃が懐かしいな…
平助君…
会いたいなんて
思つたらだめだよね
ドン
あっ
すみません
ボーっとして~
いや

薄桜鬼
はくおうき
巡恋華
新選組奇譚
～藤堂平助篇～
【後編】
作画
暁かおり
TM

つまり
斎藤君には間者として伊東派に混じってもらったんだ
この半年御陵衛士として活動してわかったが
伊東たちは新選組にとって明らかな敵対行動を取ろうとしている
更に奴らは…
近藤局長の暗殺計画を練っています
残念だが
伊東さんには死んでもらうしかないな
はあ…
戻ってきた斎藤さんから告げられた事実…
土方さんはすぐに御陵衛士たちを討伐するため指示を出した

さ…
斎藤さん!?
「新選組と衛士との交流は一切禁止だ」
どうしてここに…
御陵衛士になったはずじゃ!?
切腹… 切腹… 切腹… 切腹…
そのことについては局長たちから話がある
じきに幹部が召集されるだろう
……?

雪村くん
ポン
大丈夫
トシだって本心では助けたいと思っているんだ
そうでなければ実行隊に原田君や永倉君をわざわざ選んだりしないとも
あっ…
カァ…
すみません…取り乱して…
平助はこんなにも皆に慕われているのだな
原田君 永倉君 頼んだぞ

近藤さんと俺で伊東を呼び出し接待して酔わせたところを斬る
その後伊東の死体を使って衛士の奴らを呼び出し一気に叩くぞ
実行隊は新八と原田……頼む
ま
待ってくださいそれって…
御陵衛士の…平助君はどうなるんですか?
刃向かうようなら斬れ
!?
そんな…
平助君がどうなったっていいっていうんですか!?

そろそろ来る頃か…
大丈夫か千鶴
はい
平助君
必ず助ける……!
!!
来たな
行くぞ

あの…
待って ください
平助君を説得 できれば
また新選組に 戻ってきてくれるはず
私も一緒に 行かせてください

っのバカ！
こんな危ないとこになんで…
平助君
私
ぎゅっ
私…
平助君に新選組に戻ってきてほしい…
近藤さんも土方さんだって同じ気持ちだよ
皆…
皆平助君のこと待ってる

!!
新選組……!!
伊東先生の仇!!
ワァァァァ
ッ
平助君!
平助君
平助君
千鶴──!?
おまえ…
ァ
ア
ア
ア

何をしている そいつも新選組だろう
俺が斬る!!
どけっ!!

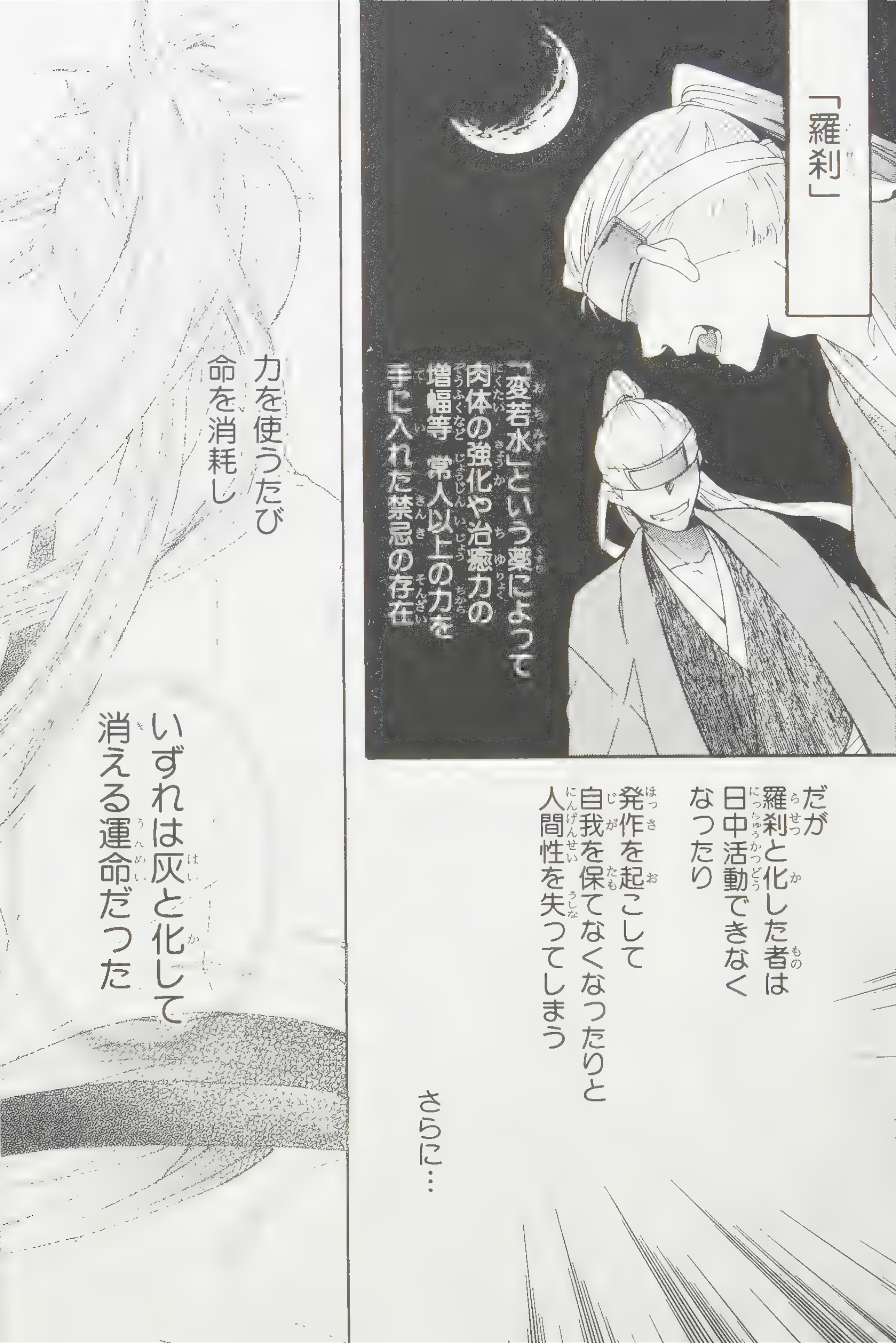
けど
今更……
オレは伊東さんについてくのが国のためだって思って出ていったのに…
今でもそう思ってるの!?
それは…
藤堂!!

う…
クソッ…
しっかりして
仲間に手ェ上げちまった…
オレ 衛士失格だな
なんとなくで伊東さんについてきたけど…今この時は思想とかそういうのはどうでも…よくて…
今…ただおまえを守り…たいって思って……

がっ…
平助君!!
ズサッ

平助くんが新選組に戻ってきてくれたら
昔みたいにまた一緒に…
一緒に——……

平助君!?
へへ カッコ悪い…
おまえのこと…
もっと守ってやりたかったのに……


「羅刹」
「変若水」という薬によって
肉体の強化や治癒力の
増幅等 常人以上の力を
手に入れた禁忌の存在
だが
羅刹と化した者は
日中活動できなく
なったり
発作を起こして
自我を保てなくなったりと
人間性を失ってしまう
さらに…
力を使うたび
命を消耗し
いずれは灰と化して
消える運命だった

その後
瀕死の重傷を負った平助君は「変若水」を使った
傷はあっという間に治り信じられない早さで新選組へ復帰することになった
ただし「羅刹」として…

何言ってんだよ
おまえをかばったのも変若水を飲んだのも自分で決めたことだ
……
伊東さんについていったのも自分で決めたことだと思ってたのに…
なんなんだろうなオレ…
いつも後悔して…迷って…
平助君？
ホラ！
おまえはもう寝る時間だろ！
ま待って
あまり会えないからもう少し…

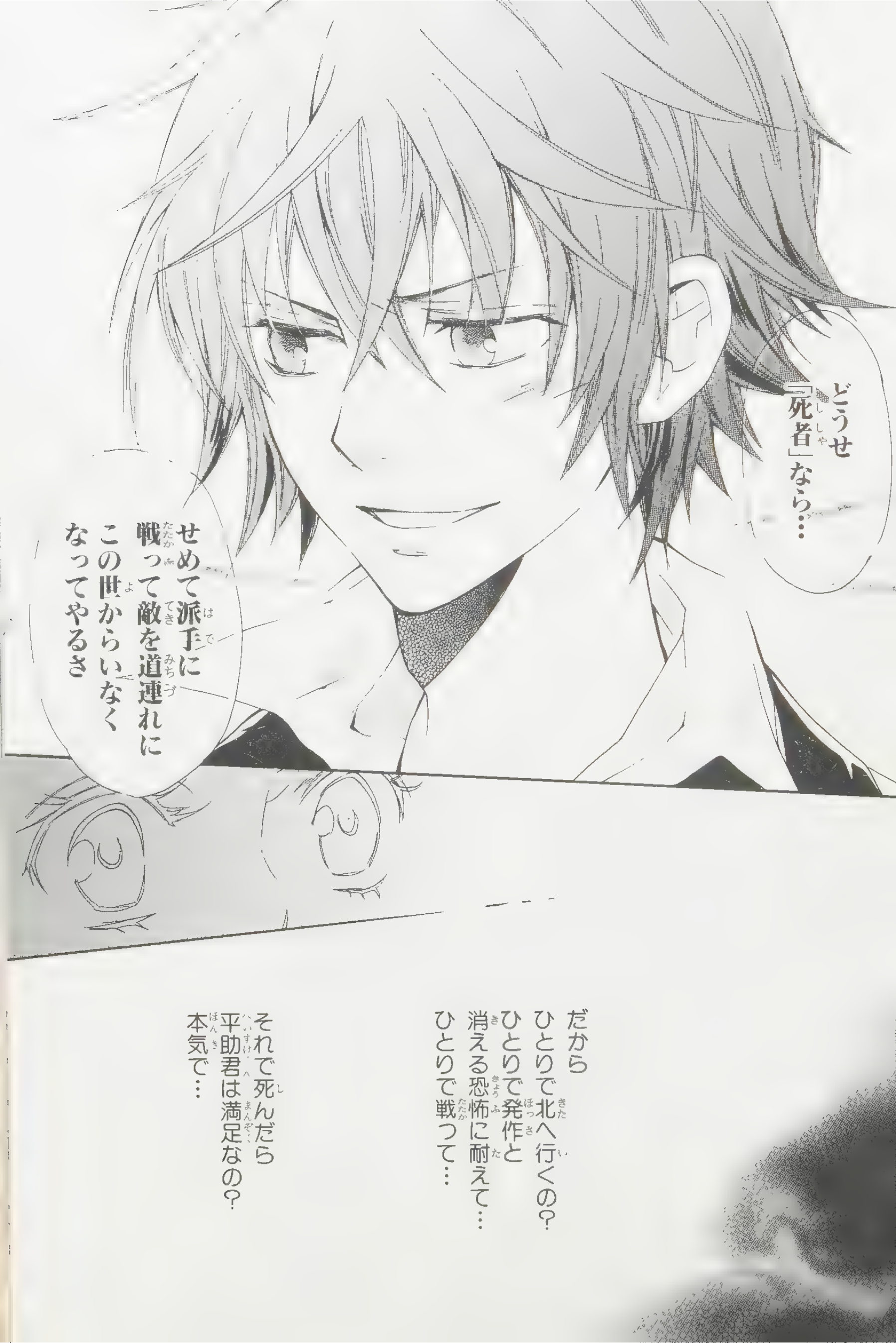
トン トン
平助君…いる？
ガラ…
千鶴か…
どうしたんだ？
ごめんね あの…
体調はどうかと思って
傷はもう跡形もないよ
たまに発作が起きんのがしんどいけどな…
あ…
ごめんなさい 私をかばったせいで……

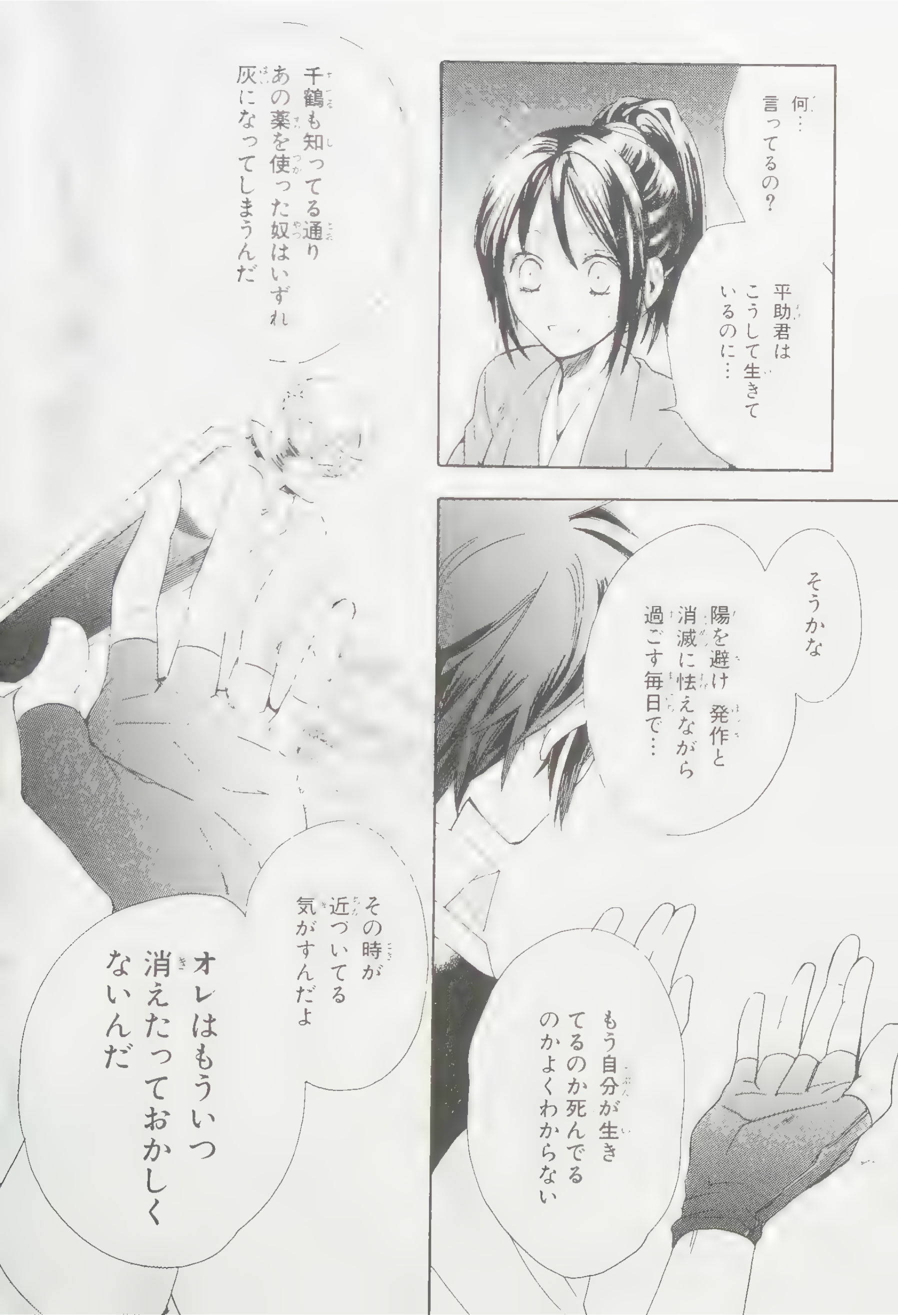
お
悪いな夜更けに呼び出して…
!?
へ…平助くん!?
いいい一体……
なっ…なんだよ驚きすぎだって
土方さんが銃を使うならこの方がいいって…
髪の毛もばっさり!別の人みたい!
わ、わ、あ

仕方ないだろ
化け物になっちまったオレとは生きてる時間が違うんだ
おやすみなさい…
時代は流れ――
新選組は新政府軍に追われる立場となり
会津に身を寄せていた
平助君…話ってなんだろう
ガラ
失礼します

今日黙って出て行こうかとも思ったけど
やっぱおまえには知らせておきたくて
そんな…その身体でひとりでなんて危険すぎるよ
そうだ！私もついていく！ひとりくらいなら土方さんだってなんとか…
…だめだ
これはもう「死んだもの」の仕事だから…

――はっ
……え……
銃を…？
ああ
オレひとりで北へ向かうことになったんだ
表にするとマズい件らしくてさ…
本隊から人数を割けねぇ
動けるのは名簿上死んだことになってるおまえだけなんだ…
わかった


どうせ「死者」なら…
せめて派手に戦って敵を道連れにこの世からいなくなってやるさ
だから ひとりで北へ行くの? ひとりで発作と消える恐怖に耐えて… ひとりで戦って…
それで死んだら平助君は満足なの? 本気で…


何…言ってるの？
平助君はこうして生きているのに…
そうかな
陽を避け 発作と消滅に怯えながら過ごす毎日で…
もう自分が生きてるのか死んでるのかよくわからない
千鶴も知ってる通りあの薬を使った奴はいずれ灰になってしまうんだ
その時が近づいてる気がすんだよ
オレはもういつ消えたっておかしくないんだ

〰〰っ
わ…
私は
うれしかったよ
羅刹でもなんでも平助君が生きて
こうして今一緒にいられて…
なのに…
……
平助君の苦しみがどれ程のものか私にはわかるはずもないんだと思う

それに探しに行こうとしたって
この脚は今すぐ灰になるかもしれないいんだぞ
だったら…私が支えるよ
手が届きそうになったってこの腕は今すぐ崩れて消えるかもしれない…
だったら私が代わりに手を伸ばす！

それでも――……
「どうせ」なんて言って
自分から死のうとするなんて酷いよ…!!
ボロ
ボロ
私は諦めない
平助君と一緒に行く
そして戻ってきたら元の体に戻る方法を探しに行こう
そんな方法なんてあるかとうかもわかんねぇのに…

けどそんな方法があるって信じてるおまえを信じることはできると思う
いつ消えるかわからない体だけどさ
おまえのためにもう少し生きてみる

平助君が死なずに済む方法を…
ううん
〝平助君と一緒に生きる〟方法を
絶対に見つけたいの…！
…オレは
言われていきなり前向きになんてなれないし
この体を救う方法があるなんて思えない

父の行方を知るため
京へ上った私は
新選組と出会い
父を捜すことを条件に
彼らと行動を共に
することになった——
二条城周辺——
はぁ
はっ
今日は将軍
家茂公の警護で
新選組の皆さんも
たくさん働いてる
私も頑張って
お手伝い
しないと…
貴様
どこの者だ
動けば
斬るぞ!
うるさい
蠅共だ
っ…
かかれぇ!!

はくおうき
薄桜鬼
巡恋華
～風間千景篇～
前編
作画
RURU

おーおー
人間てなあバカみてえに弱えなあ
池田屋や禁門の変で何度も新選組の前に立ち塞がった人達…
どうして…
あなた達がここに!?
君を捜しに来たのです
雪村千鶴
え…?
その腰の一振り
そして東の鬼を示す〝雪村〟という姓…
それらはお前が我々と同じ鬼の一族であるという証
…まさかこの京で会えるとは思わなかったが——

くおおっ…!
風間千景(かざまちかげ)——!

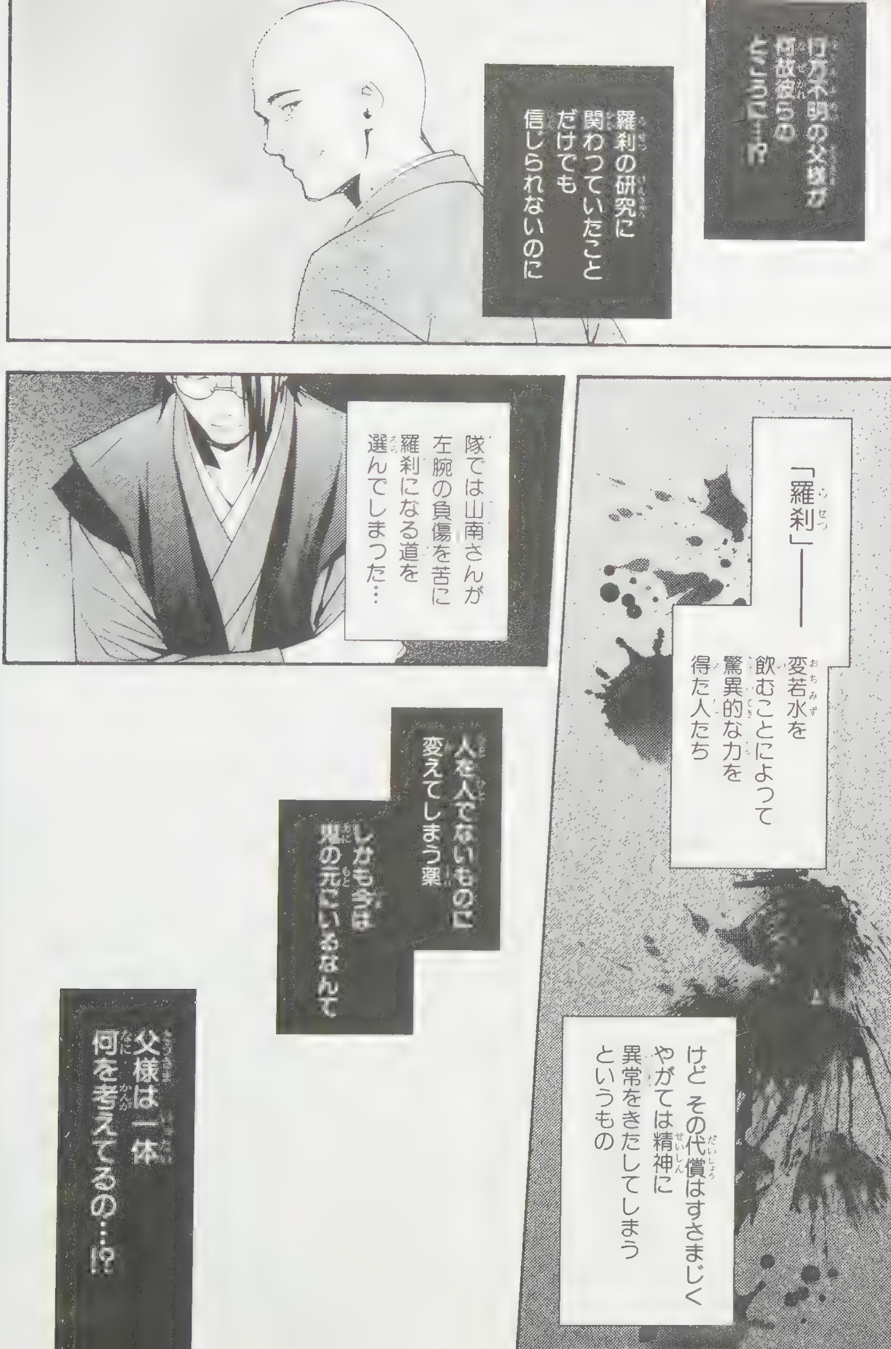
ガキ相手に大の大人が寄ってたかりやがって
将軍様の懐近くで逢引きたあふてえ輩だぜ
下がってろ
皆さん…！
…フン
相変わらず弱い犬はすぐ群れたがる
鳴き声も耳障りでかなわんな

鬼…!? 一体何を言って
君は怪我の回復が早くありませんか?
それこそ異常と感じるほどに
なんならこいつって証明してみてやろうかあ?
よせ不知火
貴重な女鬼だ…このまま連れていく
さあ
私が…鬼…!?
我らと共に来い——
一体どういうことなの…!?
待て!

――そう
それがどういう意味かよく考えることだな
父に会いたくばいつでも会わせてやろう
いずれまた迎えにくるぞ
雪村千鶴――
!
待てっ逃がすな!
……!

なんだと…!?
せっかく揃ったのだから忠告しといてやろう
貴様らが行っている羅刹とやらの研究
あれは無駄なことだ今すぐやめておけ
!
…てめえには関係ねえ
やれやれ…愚かな犬共には理解できんか
綱道…!?
父様が…!?
だが貴様らが捜す綱道はこちら側にいるのだぞ
どうして父様があなたたちのところにいるの!?
千鶴!
……!

おまえが我々と同じ
鬼の一族である証
いずれまた
迎えに来るぞ――
私が
鬼…？
おい
おまえに
客だ
千鶴ちゃん！
お久しぶりね
お千ちゃん！
以前 京の町で
知り合った娘…
でも どうして
彼女がここに…？


行方不明の父様が何故彼らのところに…!?
羅刹の研究に関わっていたことだけでも信じられないのに
「羅刹」――
変若水を飲むことによって驚異的な力を得た人たち
隊では山南さんが左腕の負傷を苦に羅刹になる道を選んでしまった…
けど その代償はすさまじくやがては精神に異常をきたしてしまうというもの
人を人でないものに変えてしまう薬
しかも今は鬼の元にいるなんて
父様は一体何を考えてるの…!?

その理由は
恐らく彼女が東国一の力を持つ雪村家の生き残りだから――
…ごめんね千鶴ちゃん
でも私にはわかるの
私も…鬼の一族だから
……!
風間は彼女の純粋な血を欲しがっています
良家の鬼同士が結ばれればより強い鬼の子が生まれるのですから
千鶴ちゃんを手に入れるまで風間は何度でもここを襲うでしょう
…なるほど嫁にする気か
あなたたちではとても守りきれると思えない

ここに来たのは他でもありません
私たちは彼女を迎えにきたのです
私…？
ざわっ…
あなたたちは風間をご存知ですね？
ああ
ならば話は早いです
では彼らが「鬼」だということも？
…奴らの言葉を信じるならな
単刀直入に申し上げましょう
鬼の一族の中で西国一の力を持つ風間家…その頭領風間千景は彼女を狙っています

だから…
もう少しだけ時間をください…
私の気持ちをくんでお千ちゃんは帰っていった
くれぐれも気をつけてね
奴らは必ずまたあなたの前に現れるから
やがて
彼女の言葉はすぐに現実のものとなる…
伊東を斬る
御陵衛士の新選組に対する明らかな敵対行動さらには近藤さん暗殺の企て…
もはや看過することはできねえ

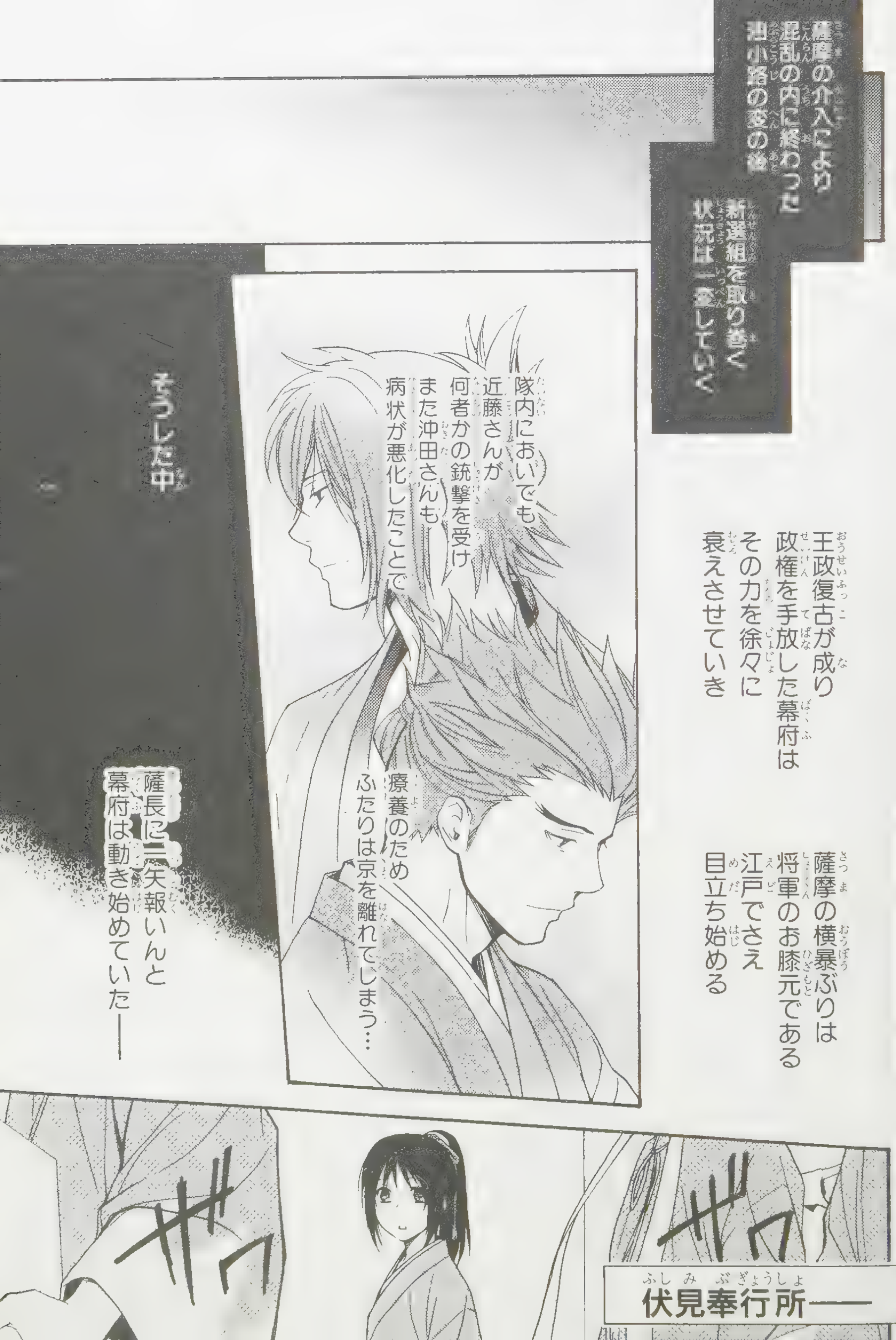
だから
千鶴ちゃんは
私たちと
一緒に…
聞き捨て
ならねえなあ
お千さんよ
俺たちゃ
壬生狼と呼ばれた
新選組だぜ
鬼の一匹や二匹
どうってこと
ねえだろうが
ですが…
お千ちゃん
ごめんなさい
正直…まだ
よくわからないの
私が鬼だとか…
そのせいで風間さんから
狙われているだとか……
千鶴ちゃん…

大変です
鬼が襲撃してきました!!
ーー！
ちっ…こっちもか
雪村くん！君は隠れていろ
でもっ…
確か主力部隊はほとんど油小路の方に
そうだ斎藤さんがこちらに残って…！
はっ
斎藤さんを呼んでこなくちゃ
ダッ
うっ…
ひどい血の臭い…！

連中も今日で終わりだー
「御陵衛士」
新選組に元いた伊東甲子太郎が隊を割って結成した組織
皆…大丈夫かな
私がついていっても足手まといになるってわかってるけど…
雪村君!
山崎さん
大変な報が入った
どうしたんですか? まさか皆に何か
いや 作戦自体は成功したのだが
衛士たちを油小路に呼びよせたところで薩摩の横槍が入った
薩摩が…!?

この程度の輩どもに
囲まれて暮らすのが
おまえの幸せか？
雪村の女鬼よ
ザッ
……！
何度も何度も
皆を傷つけて…！
ほう…
…私はっ

はッ
山南さんとあれは…
風間千景！
山南さん――！
――フン
見ろ この力無き まがい者どもの 末路を
人間が無き知恵を いくら絞ろうと
所詮我ら 本物の鬼には 微塵も及ばぬと いうのに
くっ…


薩摩の介入により
混乱の内に終わった
池小路の変の後
新選組を取り巻く
状況は一変していく
王政復古が成り
政権を手放した幕府は
その力を徐々に
衰えさせていき
薩摩の横暴ぶりは
将軍のお膝元である
江戸でさえ
目立ち始める
隊内においても
近藤さんが
何者かの銃撃を受け
また沖田さんも
病状が悪化したことで
療養のため
ふたりは京を離れてしまう…
そうした中—
薩長に一矢報いんと
幕府は動き始めていた——
伏見奉行所——
ザワ
ザワ

私は自分が鬼だろうと人間だろうと関係ありません
あなたとともに行くつもりはありません!!
…フン
あいにく今日はただの時間稼ぎに来たまで
また会おう——
そうして

旧幕軍から
薩長軍への
砲撃を引き金に
世に言う
「鳥羽・伏見の戦い」
である――
戦いの火蓋は
切って落とされた
斎藤・山崎は
外の状況を
調べてこい
新八は
隊士の戦支度を
急がせろ!!
了解!!
バタ
バタ
あ…
京の町が
戦火にさらされて
しまう…
そんなこと
私たちの誰も
望んでいないのに――!
~風間千景篇~【後編】

どうしたんだろう
皆すごく忙しそう…
あの…永倉さん
何か起こったんですか？
ああ…
どうやら旧幕軍がこの京に向かってきているらしい
！それって…
数に物を言わせた薩長への威嚇だと思うけどな
だが それだけで済まない場合も
ドオン
!!
砲声――!?
〜風間千景篇〜【前編】了

官軍による砲撃は
連日休間なく続き
私たちはやむを得ず
旧幕府側である
淀城への撤退を決意する
私は井上さんと
武器弾薬の
運び出しを
することになり
一番最後に
奉行所を
出ることに
なったのだけど
そこへ運悪く
敵の砲弾を間近に
受けてしまい
皆と離ればなれに
なってしまう――
そうして今は
ひとり淀城を目指し
森の中にいた
森の中なら
官軍の追手にも
そう簡単に
見つからないはず…
ガサ

薄桜鬼
巡恋華
~風間千景篇~【後編】
作画
RURU

こいつを薩長に引き渡せば褒美が出るかもしれん
つかまえろ!
ひどい…
幕府を裏切るなんて…
ぎゃっ
!?
ぐあ…
あ…
風間さん——!?

ガサッ
どきっ
……？
おまえここで何をしている
ホッ
足軽の兵装…旧幕軍の人だ
す すみません
私 新選組からはぐれてしまって
新選組だと!?
貴様 新選組の手の者か
え…？
そんな…あなた方は旧幕軍の者では
フン
幕府などとうになくなったわ！

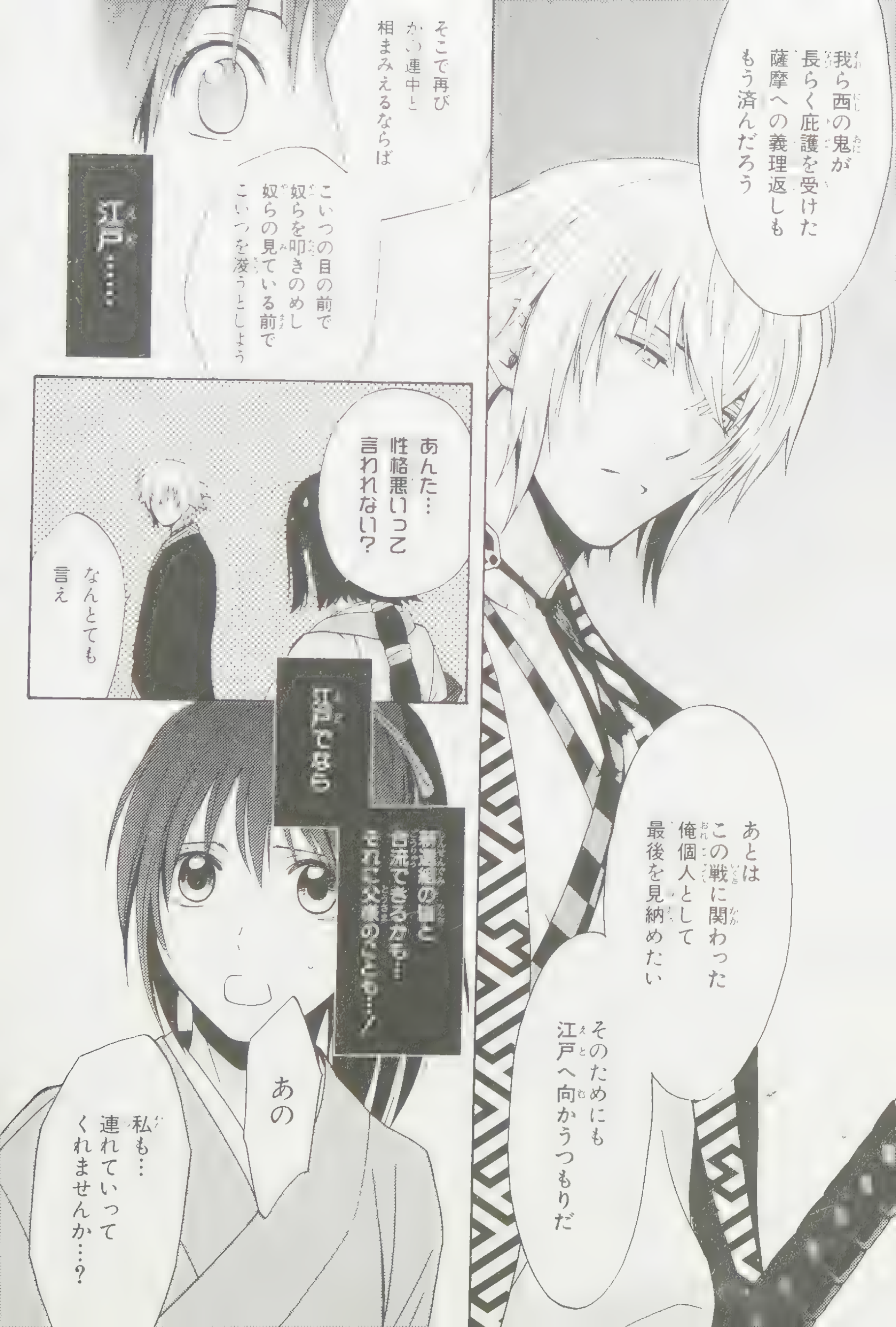
ザッ
ザッ
……？
ドンッ
クァァァァ
ドォン
あっ…
……
攻撃されているのは…旧幕軍!?
相手は官軍と…まさか……
淀藩は官軍についた
朝廷より錦の旗をいただいた薩長軍に諸藩の多くは味方するだろう

………
ひっ…
ぎゃああ
…ここで何をしている
いつものうるさい番犬共はどうした？
まさか怖じ気つきおまえをおいて逃げたか
……!!
違います！私が勝手にはぐれただけで…
これから淀城にいる皆の元へ向かうところなんです
やめておけ この周辺は薩長軍に制圧されている
………
……来い
真実を教えてやる

だから――
風間
その子から離れなさい
お千ちゃん…!?
よくもこんなところまで連れ出して…
彼女に何かしてみなさい 私の命で日本中の鬼があんたの敵に回るわよ
天霧 貴様…
…私はただ京を統べる千姫の行動に従うまでのこと
風間?
私が言ったことを聞いて――
…今ここでこいつを奪うつもりはない

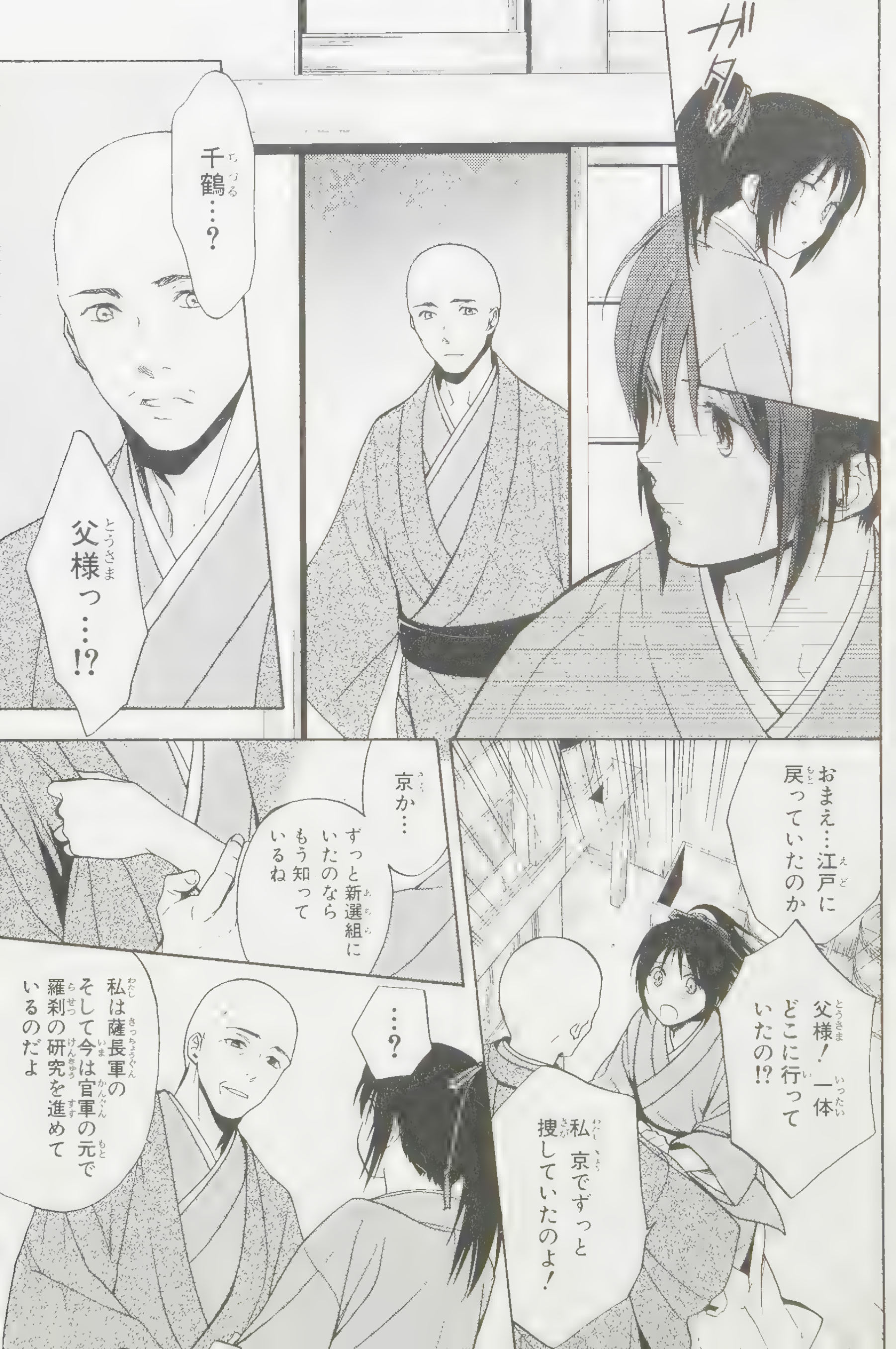
で…でも
大坂や江戸にはまだたくさんの味方が
そんな
皆――
賊軍とみなされた奴らにもはや後はない
…終いだよ
……愚かなものだな
いかに大義名分を掲げようと
戦争など所詮私利私欲の走りに過ぎん
…例えそうであっても
自分以外の大切な誰かのために戦っている人たちもいます…!!

…我ながら
おかしな選択をしたと思う
お千ちゃんも呆れていたけど強く反対はせず護衛のためにと天霧さんを付けてくれた
だけどきっと風間さんは何もしない気がする
手を出さないと言った自分の言葉を偽ることだけはしないように思えたから…
私も一緒に江戸に行きます…!!


我ら西の鬼が
長らく庇護を受けた
薩摩への義理返しも
もう済んだろう
あとは
この戦に関わった
俺個人として
最後を見納めたい
そのためにも
江戸へ向かうつもりだ
そこで再び
かの連中と
相まみえるならば
こいつの目の前で
奴らを叩きのめし
奴らの見ている前で
こいつを浚うとしよう
江戸……
あんた…
性格悪いって
言われない？
なんとでも
言え
江戸でなら
新選組の皆と
合流できるかも…
それに父様のことも…！
あの
私も…
連れていって
くれませんか…？

江戸に来てすぐ新選組の足取りを調べたりといろいろ忙しそうだったから
きっと疲れてるんだろうな…
……
こんなに穏やかな風間さんを見るのは初めてかも知れない…
…ふっ…
あれほど忌み嫌ってた敵を…そんな仔犬のような目で見て
っ……!?

――やがて江戸に着くと天霧さんは単独行動を願い出た
そのため風間さんとふたりきりで過ごすことになってしまって
雪村邸にて
風間さん
少し休んで お茶でも…
なんだか緊張して落ちつかない…
………


ガタ
千鶴…？
父様っ…!?
おまえ…江戸に戻っていたのか
京か…
ずっと新選組にいたのならもう知っているね
父様！一体どこに行っていたの!?
私 京でずっと捜していたのよ！
…？
私は薩長軍のそして今は官軍の元で羅刹の研究を進めているのだよ

あっ……
た
たぬき寝入りですか!?
なんて悪趣味な…
そっちが勝手に寝たと思い込んだだけだろう
人の寝顔を覗く方が余程悪趣味だぞ
……!!
——そう！
そうこうしているうちに
私たちは江戸に戻った新選組が「甲陽鎮撫隊」と名を改め甲府に移っていることを知り
よし、と
とりあえずこれだけ持っていけば
皆を追うため甲府に向かう決意をする

……
くっ
ダッ
あ…
その後——
単独で父様の行方を
追っていたという
天霧さんから
報告を受ける
父様が自ら
羅刹の力を官軍に
売り込んだということ
そして
新政府樹立の手始めに
江戸を大火に
巻き込もうとしていること
奴の行動は
鬼の一族の誇りを
汚すだけだ
いずれ斬らねば
ならんだろう

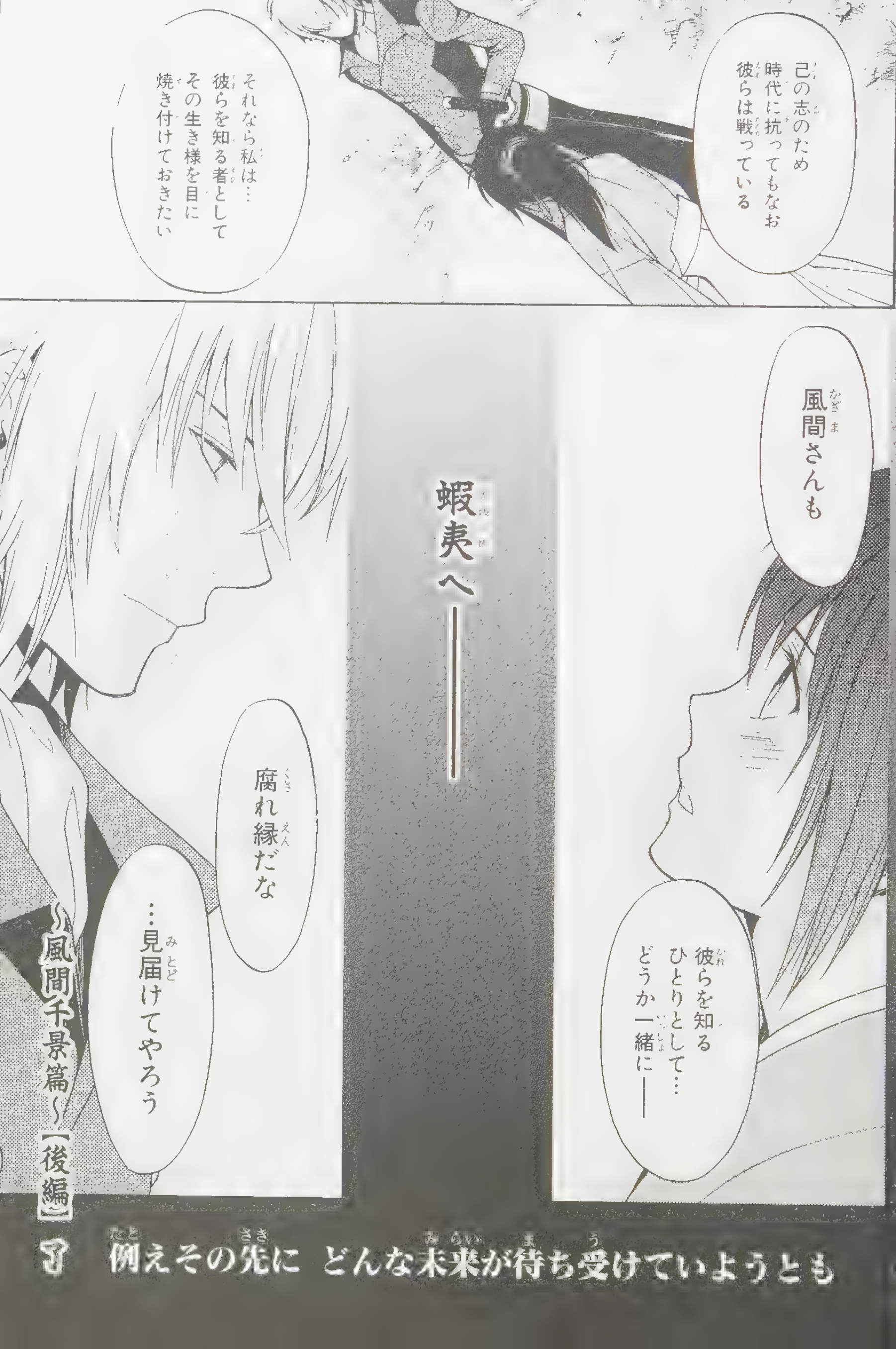
やがておまえにも
面白いものを
見せてやれるだろう
この江戸が
火の海になる
様をな…!!
何を
言って…
父様…!?
どういう意味だ
綱道
かっ…風間様!?
どうしてここに
羅刹の研究は
中止させたはずだ
貴様
もしや……

父様
江戸を火の海にすることがどうして新政府のためになるの？
国に生きる人をたくさん犠牲にしてそれがこの国の何になるというの？
…聞き分けのない子だな
チッ
つべこべ言わずについてきなさい
おまえの体に流れる強い鬼の血さえあれば人の世を統べることだってできるのだからな
ああ――
それが貴様の本性か
下郎め

綱道は分家の出で
おまえと直接の
血のつながりはない
奴を見放すか?
私は
父様の本当の
子供じゃない…
…いいえ
それでも父様が
私を育ててくれたことに
変わりはありません
どうか…
父様と話す時間を
ください…!
おお 千鶴!
よくここまで
来てくれた
私とともに来る気に
なったかね?

おまえの父は
弱い心を人間に利用されただけだ
羅刹の力を利用しようなど…天下が変わっても所詮することは同じ
人間とは実に愚かで下らん
…わかっています
そういう人間も確かにいる
だけど

なっ…!?
き 貴様…
表の羅刹共は
生憎残るは
貴様ひとりだ
――せめて
俺の手で逝け
……!
ぎゃあああ
優しかった父様
穏やかだった日々
どこでどう
歯車が狂って
しまったの…?


己の志のため
時代に抗ってもなお
彼らは戦っている
それなら私は…
彼らを知る者として
その生き様を目に
焼き付けておきたい
風間さんも
彼らを知る
ひとりとして…
どうか一緒に――
蝦夷へ――
腐れ縁だな
…見届けてやろう
〜風間千景篇〜【後編】
了
例えその先に どんな未来が待ち受けていようとも

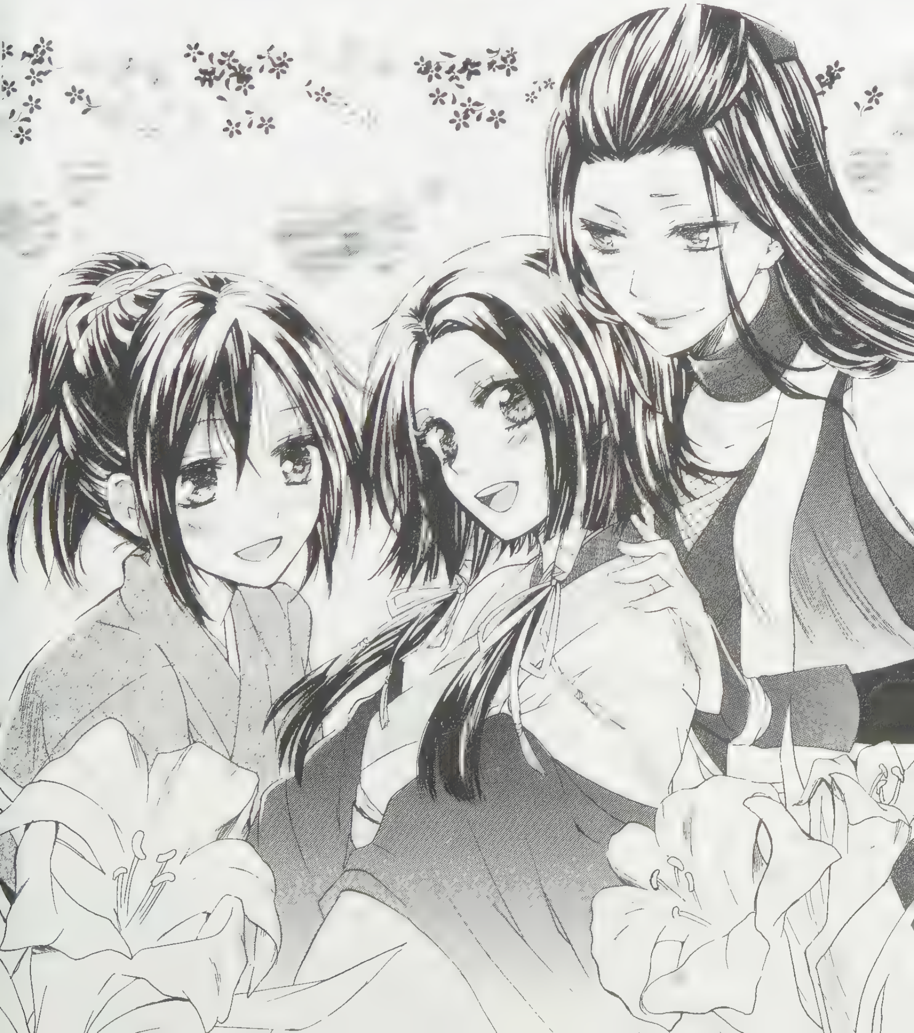
そうでない人たちのことを
私は知っている——
——やがて
江戸城が無血開城され
旧幕軍は北上を
続けるも各地で
敗戦を喫してしまう
新選組では
永倉さん・原田さんが離脱し
さらに近藤さんの斬首
会津での斎藤さんの残留と
かつての姿は
もうどこにも
なくなっていた
…次は
蝦夷だそうだ
もはや死に場所を
探しているようにしか
みえんな
ドクン
いいえ
彼らは
生き様を世に
示してるんです
ドクン

ありがとうございました！

ここまで読んでくださった皆様 そして制作に関わってくださった方々
ありがとうございました…

この短篇では ポイントになるシーンで（ほぼ）平助くんが「笑って」います。
見比べていただいて その時ごとの表情の違いが伝わりますと幸いです。

暁かおり



風間篇お読み頂きましてありがとうございました！
風間さんならではの信念や格好良さ、
それに対する千鶴ちゃんの心の変化などが
この漫画から少しでも伝わればいいなと思います…！

そしてまたまたカットが山崎君…すみませんっっ

RURU

SPECIAL THANKS!!
杉浦サト・的井けるな
白石正明・道久孝弘
担当S氏

SYLPH COMICS

S・L・H ストレイ・ラブ・ハーツ！①～④　硝音あや
アノニマス　今村陽子
おまもりのかみさま 全2巻　小杉 繭
レベル4 全2巻　岬下部せすな
トリコン!!! triple complex (A5判)　ねこ田米蔵
咎狗の血　山本佳奈／Nitro+CHiRAL
腐女子っス！①～③　御徒町 鳩
マジナ！①～③　山田J太／EDEN' S NOTES
鳥籠荘の今日も眠たい住人たち①～②　宝井理人／壁井ユカコ
つくろい屋シリーズ あわいの森　前田とも
つくろい屋シリーズ2 まどいの扉　前田とも
ひめごとははなぞの①～③　わたなべあじあ
Dear Girl～Stories～ 響①～②　いわさき砂也／諏訪 勝
聖魂サクリファイス①～②　天河 藍
テストの学園のプリンセス　8MITSU
プティフール　桃色ペコ／デザインファクトリー
ペンギンとストロベリー～Prince&Girl～①　桃色ペコ
キッチンのスキマ　ぺぷ
スイートマシンガン　松本ミナオ
星屑町のパンのミミ①　松本 花
薄桜鬼 巡恋華①　暁 かおり／篠原花那／RURU
薄桜鬼 巡恋華②　暁 かおり／錐 もち／RURU／アイディアファクトリー・デザインファクトリー
VitaminZ①　三島一彦／D3パブリッシャー
緋色王子①　村崎 翠
従者の学校　松山花子
クラノア①　久遠あき／加藤千穂美
同居チュウ！　ことり野デス子
薄桜鬼 巻之壱　ひらく 椥／オトメイト／「薄桜鬼」製作委員会

SYLPH COMICS

薄桜鬼 巡恋華 ②

2010年10月22日 初版発行

作 画 暁 かおり／雏 もち／RURU
監 修 アイディアファクトリー・デザインファクトリー

発行者 髙野 潔
発行所 株式会社アスキー・メディアワークス
〒160-8326 東京都新宿区西新宿4-34-7
電話03-6866-7307(編集)
発売元 株式会社角川グループパブリッシング
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
電話03-3238-8605(営業)

カバー・本文デザイン LIGHTNING
装 丁 小菅ひとみ(CoCo.Design)

印刷・製本 凸版印刷株式会社

©IDEA FACTORY／DESIGN FACTORY Printed in Japan

本書は、法令に定めのある場合を除き、複製・複写することはできません。
定価はカバーに表示してあります。落丁・乱丁本はお取り替えいたします。
購入された書店名を明記して、株式会社アスキー・メディアワークス生産管理部あてにお送りください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。但し、古書店で本書を購入されている場合はお取り替えできません。
この物語はフィクションであり、登場人物・団体等は実在のものとは関係ありません。

●初出● シルフ Vol.11～Vol.12、2010年7月号～9月号

ISBN978-4-04-868984-7 C0979

ISBN978-4-04-868984-7
C0979 ¥600E

9784048689847

1929079006003

ASCII MEDIA WORKS
発行● アスキー・メディアワークス
定価: 本体600円
※消費税が別に加算されます
©IDEA FACTORY／DESIGN FACTORY

W8-ANU-395

薄桜鬼(はくおうき) 巡恋華

【斎藤一×雛もち】
新星・雛もちが繊細に紡ぐ、
真の武士が貫いた揺ぎない信念——。

【藤堂平助×暁かおり】
気鋭・暁かおりが華やかに魅せる、
若き青年の、未来への葛藤——。

【風間千景×RURU】
美麗絵師・RURUが絶対的画力で放つ、
誇り高き鬼の新たな道——。